



医療法人 セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目次

卷頭言	2
新病院に向かって	
医局	4
心理専門相談室	6
看護部	8
研究室・培養室	10
受付	12
情報処理室	14
厨房	17
新病院に向けてのあゆみ	18
診療統計	
外来患者および妊娠結果の内訳	22
外来・入院数	24
入院数	25
妊娠数	26
初診後妊娠までの期間	30
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	30
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	31
ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	31
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	32
ART(生殖補助医療)による妊娠	33
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	33
異常児の詳細	34
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	36
行事一覧	37
論文一覧	48
著書(共著)一覧	48
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	50
スタッフ配置	53
病院概要	54

新病院定礎
ルカ 1-78

新病院定礎
書：宇津宮 隆史

卷頭言

宇津宮 隆史

今年は「想定外」の地震と津波、そして原発事故と、平和ボケの日本にガツンとショックが走った。これは今後十数年にわたり影響が残るであろう。3万人以上の犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、天災はきっかけであり、その後は人災の責任が大きいと感じている。この未曾有の災害に直面し、今われわれは何をすべきか。それは、それぞれがいる場所で行うべきことを責任を持って遂行すること、それに加え、われわれの範疇内でも、今まででは「想定外」でも、「想定内」と覚悟し、対策を立てなければならない。

新病院ができた。2年前に新しい病院建設を決めたいきさつは、ルカ新聞に書いたが、実際今のように立ち上がってみると、その規模の大きさに戸惑っているのが本音である。しかし、この新病院は今までの19年間の軌跡に基づいた、更なる進展を実現するための重要な施設となるべく、設計から建築すべてにおいてそのコンセプトを盛り込んでいる。それは、産科を除いた女性のすべてにかかり、キリスト教というバック・ボーンを基に、理想的な産婦人科医療を提供する施設として機能しなければならないと考えている。

さて、その理想的な医療とは何か。当院は名前のとく、キリスト教をその基本理念に、さまざまな活動を推進するのであるが、特に産婦人科医療は、他の疾患とは異なり、世代を超えた視点からの検証が求められることが特徴といえよう。そして、特に生殖医療であれば、ますますその観点は重要となり、むしろ、その結果である次の世代の評価のほうが重要となる可能性もある。これらの基本理念を基に、具体的な活動を考えてみる。

まず、大分県全体およびその周辺の患者さんへ、最先端のレベルで心地よく、かつ効率よく産婦人科医療を提供できなければならぬ。そのためにここに移転し、外来スペースは2倍に、病室は1.5倍に広くし、また、胚培養のためのクリーン・ルームは、可能な限りの無菌度を得るために、3倍の空調設備を整えた。

ハードはこれで整った。あとはソフトである。

次に理想的な生殖医療の提供である。それは、究極的には次の世代、生まれてくる子どもが本当に幸福であることが指針となる。そのためには何をなすべきか。今まで

のわれわれの行ってきた活動の結果を振り返れば、おのずと明らかになるであろう。まず、生殖医療の安全性である。Epigenetics を中心に、今行っている治療を最新の知見を駆使して検証すること、生まれた子どもの健康調査は生殖医療を行うものの「義務」として確実に蓄積すること、これは慶應義塾大学教授 吉村泰典先生とともに、ART で生まれた子ども 3,000 人を 15 歳まで調査する厚生労働省科学研究費補助金事業「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」に取り組んでいる。

また、非配偶者間生殖医療で生まれた子どもに対する細やかなサポート、JISART（日本生殖補助医療標準化機関）ではすでに卵子提供で 6 人の子どもが生まれているが、今後数十年にわたってその子のみならず、親、兄弟、家族などへのフォローが必要である。これは JISART では卵子提供に限られて論議されてきたが、AID（非配偶者間人工授精）においても同様である。生まれた子どもにとっては、卵子も精子も同じ配偶子である。DOG (DI Offspring Group : 非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ) のメンバーは、「卵子であろうが精子であろうが、私にとって同じ重みがある」と述べている。今後は、AID においても卵子提供と同様に、事前に厳密な倫理委員会を通した審査、特に出自を知る権利についての保証、その後のフォロー・アップ、カウンセリング、サポートの整備が必要である。

幸いにも、これらわれわれの考えている産婦人科医療の方向を指示示す活動のできる場所がここにできた。2012 年は日本生殖再生医学会の大会長を務めることになっており、さらに 2013 年には、日本受精着床学会総会・学術講演会会長を拝命している。これらを通じて理想的な産婦人科医療を目指したい。



新病院に向かって

医局

「病院を駅前に移転して、もっと通いやすいセント・ルカ産婦人科に」と院長がおっしゃったのが 2009 年の夏の終わり頃だったでしょうか。それからいくつつかの病院を私も見学に行かせていただき、「診察室はこんな感じがいい。」と道中の新幹線の中で設計士さんに相談したりしてから、あっという間に 1 年が過ぎました。おおかたの設計ができて以降、私は日々の診療で手いっぱいでしたが、仕事が早く終わった日などは、帰り道に建築現場に寄って、少しづつ高くなる新病院を眺めていました。

2011 年 3 月 30 日の上棟式の時に、新病院の中に初めて入りました。ここが診察室、ここが手術室と案内されながら、少しプレッシャーを感じつつも、心が躍る気持ちでした。

この 1 年で腹腔鏡下子宮筋腫核出術の症例数も増えましたし、午前中にも腹腔鏡検査が 1 例または 2 例あるのが当たり前になってきています。開腹手術の場合に比べて、腹腔鏡手術後の患者さんの回復がとても早いことを考えると、やはり腹腔鏡下の手術が望ましいですし、新病院での初手術はやはり腹腔鏡かな、などと想像しています。病院がグレードアップするからには、自分の手術の技術もグレードアップさせなければと思うのですが、外来が忙しく、なかなか手術に入れないので残念です。

東日本大震災が起きた 3 月 11 日以来、日本中が地震と放射線被ばくの恐怖にさらされています。あまりにも破壊的な自然の力に茫然とし、人間が引き起こしてしまった事故の重大さと、それに対して手をこまねいているしかないことが歯がゆくてしかたありません。「医療者としてできることは」と自問しますが、私にできることは、今日の前にいる患者さんに対して誠心誠意診療をすることなのだろうと思います。非常事態において病院が正しく機能することの重要性、医療に携わることの覚悟というものを改めて考えさせられました。

新しくなるセント・ルカ産婦人科が社会に対してどういう役割を果たすべきなのか。今まで私は、「患者さんと自分」、「病院と自分」という関係しか考えたことがありませんでしたが、これからはセント・ルカ産婦人科の一員として、どう社会に関わっていくかを考えなければなりません。

結婚年齢が上がるにつれ、婦人科を受診する年齢も上がっているように感じます。当院を受診する頃には子宮筋腫が大きくなつて開腹せざるをえなかつたり、子宮腺筋症が進行していたり、大きなチョコレート嚢腫ができていたりする患者さんにお会うと、もっと産婦人科が受診しやすければ、もっと患者さんに婦人科疾患の情報が伝わ

っていれば、もっと早く受診してもらえていたかもしれないと思ってしまいます。また、HPVワクチンについても、身の周りの人に聞いてみると、医療従事者が思ってもみないような誤解や間違った情報が伝わっており、もっと多くの女性に正確な情報を伝え、理解してもらい、ワクチンを接種してもらえるように説明をしていかなくては、と思います。思春期や更年期の相談に対しても対応できるように、少し時間をかけて話せる外来の時間も作りたいです。

新病院に向けて、少し大げさかもしれません、私の目標は、「女性のいろいろな問題に何でも相談できるのは、セント・ルカ産婦人科だ。」と大分の人に思ってもらえるようにしたいということです。時間はかかるかもしれませんが、少しずつ頑張っていこうと思います。

河邊 史子



新病院に向かって

心理専門相談室

セント・ルカ産婦人科は 2011 年 7 月に、大分駅南に院長の夢が詰まった新病院に移転することとなりました。

初めて院長の口から新病院のことを伺った時には、全く予期していなかったこととあまりの事の大きさに耳を疑い、常に前を向いて進み続ける院長の姿勢に驚きでいっぱいでした。

その後、院長からどうして新病院を計画するに至ったか、場所の選定や決定の過程等をお聞きして、患者さんを思う気持ちが大きな決断の原動力だったことを知りました。そして私たちスタッフも院長が目指す「患者さんが通いやすい、安心してくつろげる心地よい空間で、最高の医療を提供する」というコンセプトに沿って、自分たちの部署をどのようにしていくかという楽しくも大変な課題に取り組むこととなりました。

当院の心理専門相談室は開設されて 2011 年の 3 月末で 10 年になりました。その開設当初から関わらせていただきましたので、振り返るといろいろな思い出がこの部屋には詰まっていると感じます。

今思うと恥ずかしい限りですが、生殖医療のことも子どもが欲しいと思って治療に通っておられる患者さんの心の悩みも深くは知らずにこの分野の心理臨床に入った時のこと�이思い出されます。「この部屋を使ってください」とその頃の指山師長に案内されたのが昨日のことのようです。南に向いた明るい部屋で、窓からは小高い丘の緑が見えました。大きな事務机と椅子が 3 脚、確かに本棚があったと記憶しています。灰色の大きな事務机を見て、二人で考えピンクのテーブルクロスを掛けました。また、事務長にお願いして絵を 1 枚頂き、白い壁に掛けました。受付からは大きな観葉植物を分けていただきました。このように皆さんのご協力で心和む空間となり、スタートすることができました。その後も次々と備品を換えていただいたり、壁の防音工事をしていただいたりと、いっそう居心地の良い相談室になりました。

この相談室を訪ねてくださった患者さんは 10 年間で述べ 1,000 人を超え、ご夫婦での相談も増えてきました。子どもがいても、いなくても、家族の基本はご夫婦です。二人の絆がしっかりとしていることが長い人生を歩んでいくためには最も大切だと思います。如何に治療を続けて妊娠するまでサポートしていくかという短いスパンでの視野に立つのではなく、治療後の生き方、家族のあり方まで視野にいれたサポートをしていくことが求められていると思うようになりました。不妊治療はストレスの多い治療だといわれていますが、自分自身や夫婦のあり方、今後のことなどに真摯に向き合った経験は

決して無駄ではなかったと思えるような支援を提供していくことが重要だと考えます。

とはいって、目の前の悩みでいっぱいになっている患者さんを忘れてはなりません。一人で思い悩むことのないよう、少しでも心が軽くなれるよう、行き届いた支援を提供できるように院内全体で取り組んでいきたいと思います。そのために心理相談室のできることとして、カウンセリングの垣根を低くし、気軽に利用していただける心理相談室にしていくことが大切だと考えます。また、心が疲れて心理相談室に来られた患者さんがゆったりと寛げる、ほっと安心して何でも相談できる場所でありたいと思います。

新病院に向かって折角の機会をいただいたのですから、少しでもそのような理想の相談室に近づけるように考えてみました。

患者さんのプライバシーが守れる場所にあること、時には横位置に座ったり、心地よい距離や角度を保って座ったりできる、広い空間で座れるソファがあること、ご夫婦二人で来室されても窮屈な感じがしない広さがあること、ゆったりと落ち着けるように心和む色彩であること、車椅子でも出入りができる事、事務仕事のスペースが患者さんの視界に入りにくいことなどなど、この他にも細かいことを色々とお願いしました。設計士の小田氏も今の相談室に何回か足を運び、「心理相談」を理解してくださった上で設計をしてくださいました。病院全体から考えたら、ほんの一部屋のために心を碎いてくださったことに心から感謝しています。

新病院の開院が目の前となった今、院長はじめ設計士さんや毎週のように設計会議で細かい打ち合わせを重ねてきたスタッフの理解と協力に支えられて、新しい心理相談室は当初の希望通り患者さんに安心して広い空間を提供できる場所になったのではないかと自負しています。

このすばらしい環境が生かせるよう、患者さんとの信頼関係を築き、患者さんの心が少しでも軽くなり、この病院で過ごした時間が温かく、意味のあるものとなりますよう、これからも患者さんの心に寄り添い、お役に立てるよう努力していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

上野 桂子



新病院に向かって

看護部

2011年7月大分駅南口に新病院が開設されることになり、まさに今、新しい夢に向かって活動しています。

2009年夏、火曜日の全体ミーティングの場でのこと・・・。院長が「新病院建設」を宣言し、一同驚いたのが昨日のことのように思い出されます。

その後、ヴィン設計工房の小田健設計士と各部署のスタッフ数名が集まり、2010年9月から毎週木曜日の午後、打ち合わせを行いました。

看護部では、外来・手術室・病棟・採卵室と業務場所が多く、またそれらを一つひとつ形にしていくのは容易なことではありませんでした。例えば、ベッドや洗面台、テレビの位置、棚の寸法やコンセントの配置や数など、気の遠くなるような作業で、途中投げ出したい衝動にもかられましたが、それぞれの部署全員で幾度となく打ち合わせを行うことにより、現在では形あるものとなっています。

新病院の計画がなされ、理想的な環境が整った事により何をしなければならないのか。

看護部においては、他部署との連携を図り、患者さんにより質の高い看護を提供していかなければならないと考えています。

日々の業務を垣間見ると、2010年1月から始まった河邊史子先生の河邊外来も、診療時間の枠が増えたことにより、患者さんから喜びの声も聞かれ、人数も定着してきています。セント・ルカ産婦人科が大分駅南口に移転することにより、不妊治療以外の患者さん（更年期・婦人科・思春期）がさらに増えることも予想されます。

河邊外来が始まった翌月の2月には、腹腔鏡下子宮筋腫核出術も開始となりました。開腹手術に比べ身体への負担軽減が一番の利点であり、現在では手術件数が50件を超え、日常的な手術となっていました。

セント・ルカ産婦人科の歴史を辿りながら思うことは、1992年に生殖医療の専門施設として開院して以来、医療技術の進歩は目覚ましく、毎回開催される学会に参加していかなければついていけない位の早さで進んでいます。

体外受精の成功から受精卵の凍結技術、着床前診断、卵子の凍結技術を挙げただけでも、この約20年間は携わった方々の英知の積み重ねだと思います。

しかし、医療技術が日々進歩する中でも、患者さんは多くの悩みを抱え、いろいろな困難を乗り越えることができずにいたり、他人に言えない悩みのために体の調子を壊したりなど、患者さんの最も大切な「心のケア」が遅っていました。早急に心理面での体

制作りが必須となり、2001年よりチーム医療の一環として心理部門が立ち上がり、生殖心理カウンセラーの上野がチームに加わっています。院長の治療方針の中心である「心のサポートの充実」に力を注ぎ、現在も継続しています。

生殖補助医療の進歩、心のサポートの充実を図る中、私たち看護師の役割も変化しています。妊娠する技術の関わりから、妊娠に至らなかった方への関わり、そして、妊娠されて産まれた児への関わりと生殖補助医療を長いスパンで捉え、私たちのするべきことは何なのかを常に考えていく必要を感じています。

看護部としては、一人ひとりが日々学ぶ姿勢を持って自分の看護に誇りを持ち、生き生きと仕事をし、チーム医療の中で効率的に看護を提供できるようにありたいと願っています。そのためには、部署内での勉強会や毎年の医師会研究会、地方看護学会、日本生殖医学会、日本受精着床学会などに参加することは重要な要素になると思います。

今後の私個人の目標として、新病院に移転した後の翌年2012年には、JISARTの施設認定審査を受けることになります。審査に来ていただく審査員の先生方にすばらしい点をいくつも挙げていただけるような施設でありたいと思っています。

その集大成として、今現在治療に通っている患者さんに、安心して治療を受けていただくこと、そして子どもがいてもいなくても、「あの時受診してよかったです」と後の人生で思えるような、そんなセント・ルカ産婦人科でありたいと願っています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

後藤 裕子



新病院に向かって

研究室・培養室

早いもので、こうして 1 年を振り返る季節になりました。毎年この季節に、これから 1 年こうしていきたいと気持ちを新たにする機会をいただいているのですが、今年は病院の移転計画が具体的になっていくに伴い、いろいろな思いがめぐり、特に考え深いものとなりました。私が入職した 12 年前は生殖医療研究棟ができたばかりでした。研究室には、すでに大学の分子生物学実験室並みの設備が整っており、とても驚いたことを昨日のように思い出します。

臨床に携わらせていただく中で、いまだ解明できていない問題と向き合い、今年も様々な学会で発表させていただきました。2010 年 4 月には、第 3 回 ASPIRE が暴動のさなかのタイにて行われ、院長が PGD と epigenetics に関して講演され、またラボからは IVM で出生した児の epigenetic な検討と呼吸量測定の臨床についての 2 題を、ポスター発表させていただきました。5 月に新潟で行われた第 51 回日本哺乳動物卵子学会では、呼吸量測定の臨床についての発表に対し、口演部門の学術奨励賞をいただきました。

そして特筆したいことは、2011 年 2 月に行われた日本生殖医療心理カウンセリング学会第 8 回学術集会において、胚培養士が患者さんに対して胚移植キャンセルの説明を行うことに関する質問紙調査の結果をまとめた発表が優秀演題賞に選ばれたことです。おそらく他のクリニックに類を見ないと思われますが、当院では胚培養士スタッフ 8 名中 2 名が日本生殖医療心理カウンセリング学会認定の不妊相談士に合格しており、その二人を中心に勉強会を重ね、主任クラスの胚培養士全員が患者さんに IVF 開始時の説明、移植前の説明、さらに移植キャンセル時の説明を行っています。今回の質問紙調査を検討した結果、「胚培養士の立場でしかお話できないことがある」ということ、「残念な結果になったその背景の詳細な情報を患者さんは知りたいと思っている」ということ、「実際に患者さんの受精卵を扱っている胚培養士はその要望に真摯に答えることが必要である」ということを実感しました。このことは、新病院に向け、初心に戻らなければならぬ私たちの襟を正す貴重な機会だと捉えています。

2010 年後期より、新病院への工事に向けて、今まで漠然とイメージしてきたものを実際に形にしていく作業にかかりました。セント・ルカ産婦人科に入職してからずっと慣れ親しんできたこの建物とお別れして、これまで特に不都合に気付くこともなく業務を続けてきた設計をまずいったんゼロにし、これまで以上に機能的かつ合理的で患者さんとスタッフの動線を考慮した、より良いつくりにしなければなりませんでした。さら

に、患者さんの受精卵を培養するために、これまでよりも清浄度の高いクリーンルームを構築したいという願いを実現するため、何度も会議を重ねました。それは容易なことではありませんでしたが、ヴィン設計工房の小田氏や釣宮氏に何度も図面を書き直していただいたり、寸法や配置を変えていただいたりと、大変なご尽力をいただいた結果、ようやく納得できるつくりになりました。

新しい培養室に取り入れたことは、より清浄度の高い空気を送り込むため、従来のものに比べ高品質なフィルターを用いたことです。さらに、準クリーンルームとクリーンルームの間にはエアシャワーを設置しました。また、精子や卵子、受精卵にとってストレスを与える照明については、限りなく紫外線量が低いものに替えることにしました。

胚培養士は、患者さんに対して体外受精に入る前の説明や体外受精の結果説明、また「なんでも相談」などをさせていただいているが、それでも患者さんと接する頻度が少ない部署です。そこで新病院では、患者さんに培養室をもっと身近に感じていただきたいという思いで、窓を増やしました。精液の受け取り窓口を広くつくったことにより、準クリーンルームの様子がより見やすくなつたので、安心感を持っていただけることと思います。また、クリーンルームにも小窓を設けたので、胚培養士の作業や設備などを垣間見ていただけるようになりました。

新病院が完成しても、実際に業務が始まり患者さんを招き入れ、軌道にのるまではまだ不安ですが、患者さんにとって以前より通院が容易になると同時に、培養室との心理的距離が近くなるような存在になることだと思います。

東日本大震災により、甚大な被害が日本に大きな爪痕を残しました。天災はいつ起こるか誰も予測がつくものではありませんが、きちんと組織された集合体は何が起きてても対応できる力を持っていると思います。この大震災では、初めての想定外な事態ばかり起きていますが、新聞に「初めてだからわからなかった、と言ってはいけない」という一文がありました。初めてであっても絶対に起こしてはいけないことがあります。そのために組織力を高め、何があっても真摯な姿勢で向き合っていくよう、新病院に向けて心新たにシミュレーションを重ねていきたいと思っています。

大津 英子



新病院に向かって

受付

この1年、スタッフ一同は、新病院に向かって全力で走り続けてきました。受付は、移転と共に3種類の大きな進化をむかえます。

まず1つ目は、新病院新築に関してです。2010年9月より毎週木曜日の午後、各部署の建築委員が集まり、設計士との話し合いが始まりました。

患者さんが使いやすい、声をかけやすい環境を作るため、受付カウンターの長さや高さ、机の高さや引き出しの寸法、コンセントの位置・形状、照明の位置や明るさによる見え方など、患者さん、スタッフ、業者さんの動線を考え、それはそれは細かな話し合いが毎週行われました。話し合いを重ねていく中で、部署を越えスタッフが一丸となって一つの病院を作り上げていく喜びを感じることができました。

さらに、患者さんがゆったりと、心休まる空間になるようにと、院長は患者さんの為に、広い待合室を作ってくださいました。患者さんにとって、すこしでも心休まるリラックスできる空間であってほしいと思います。素晴らしい空間だけでは、素晴らしい受付にはなりません。新病院に向け、若いフレッシュな新人も入社しましたし、受付スタッフの接遇指導を更に強化し、4人で力を合わせてお互いを伸ばしあい、成長していくたいと、今から心を引き締め、更にみんなにも頑張ってもらいたいと思っています。

2つ目は、念願の新会計システムの導入です。

2010年6月から受付の足立と、情報処理室の山路の2人が中心となって、株式会社OECの担当者と入念な打ち合わせが始まりました。従来のシステムに不具合が多かったこともあり、今回導入するシステムには、私たちの希望が全て詰まった、「理想の会計システムの構築」が最大の命題でした。

今までと大きく違うところは、以前のシステムはスタンドアロン（1台のみ）でしか使えなかつたのですが、今回のシステムからは、患者さんの会計待ち時間を大幅に軽減し、会計がスムーズに行えるように3台同時稼動ができるシステムを導入できることになりました。会計時に質問を受けることが多く、今まででは、どうしても会計待ちの患者さんが待合室に溢れてしまい、対応に苦慮していました。これからは、3台稼動することにより、患者さんの会計や質問対応等がスムーズに行えるようになると思います。更に、今までの月計表に加え、入院費月計表の出力が可能になりました。手計算で行っていた処理がデータ管理できるようになったので、とても便利になると思います。また、凍結保存料更新日管理を変更しました。当院は3ヶ月毎に凍結保存料を管理していますが、現行のシステムでは、うるう年の関係等で、どうしても更新日がずれてしまい患者さんにご迷惑をかけていました。新システムでは、すべての凍結更新日を1日と15日

に統一して管理を行うようにしたので、更新日のずれが改善され、正しい領収書を発行できるようになりました。

受付の足立もシステム構築など初めての経験で、パソコンのこともよく分からぬ状態から始まり、たくさん悩んで、何度も壁にぶつかったと思いますが、諦めず、患者さんのため、私たちのために一生懸命立ち向かって、深夜までの残業もものともせず、細かいところまでチェックやテストをしてくれました。この努力があったからこそ、みんなに誇れる素晴らしいシステムが出来上がったのだと思います。

最後に、開院以来、患者アンケートではいつも「待ち時間が長い」という言葉が多く、ずっと頭を抱えていましたが、待ち時間解消の目玉として、受付予約システムの導入に踏み切りました。こちらは新病院からの稼動予定で、受付からは越名が、情報処理室からは平松が担当として、とても難しい内容ですが、一生懸命打合せを行っています。

今まででは、午後の外来と夕方診療のみ予約制で、午前診療は一部しか予約制にしておらず、外来の待合室には、診療待ちや注射待ちの患者さんで溢っていました。予約システムを導入することにより、患者さんの待ち時間の短縮、スタッフが来院患者さんの診療内容をより早く把握できるようになり、業務がスムーズに行えるメリットがありますので、この予約システムがうまく稼動してくれればと心より願っています。

このように、新病院に向かって、受付は大きく変わろうとしています。

大分駅南口に移転するにあたり、今までの不妊治療に加え、婦人科一般、思春期外来、不妊予防外来等、計画しております。

今後は、ますます患者さんも増え、業務も煩雑になると思います。他部署との連携をスムーズに、意思の疎通を図ることにより、ヒヤリハットの防止にも繋がり、確実な業務を行えるようになると思います。患者さんに対しては、目配り、気配り、心配りで、気づきを忘れず、気の利く、患者さんの心に寄り添える受付を目指したいと思います。

最後に 2010 年度の不妊治療助成金の総件数が出ましたのでご報告いたします。

	人数	申請回数	助成金額
大分県	81	117	16,842,700
大分市	178	275	52,094,700
他県	4	7	1,050,000
県と市両方	41	48	4,729,133
大分市以外	11	12	704,900
合計	315	459	75,421,433

2010 年度に助成金を申請した 315 名（申請回数：459 回）のうち、28 名（28 回）は IUI（人工授精）、287 名（431 回）は高度生殖補助医療を受けられています。

越名 久美



新病院に向かって

情報処理室

2011年3月30日、大分駅南口から徒歩1分にある、私たちの夢が一杯に詰まった場所で、たくさんの方にご参加いただき、上棟式が盛大に行われました。

ご近所の方もたくさんいらしてくれて、ここにセント・ルカ産婦人科が移転することは、こんなにも祝福されているということに感動しましたし、院長をはじめ、スタッフみんなの嬉しそうな満面の笑顔に、心からの幸せを感じたのを覚えています。

あんなに嬉しそうな笑顔を見たのは、本当に本当に久しぶりでした。

あの恐ろしい大震災の後、私達も様々な支援活動を行っていますが、被災地を思うと空を見上げる気持ちにはなれない日々が続いていたところでした。しかし、院長が上棟式を行う決断をされたあと、いろいろな準備を行いながら、被災しなかった私たちが、上を向いて元気で頑張って、しっかりと経済が回る努力をする事が大切と気付かせていただけました。

さて、院長の突然の爆弾発言「土地がみつかりました。新築移転します。」から、目の回るような、1日24時間のはずが、本当は12時間も無いのではないか?1年は実は半年位しか経っていないのではないか?と感じるくらい、この1年はあっという間で、窓の外を見ると、もう森岡の丘の上は桜が満開です。

この短い時間の中で、新築打合せ会議とは別に、大きな3つのプロジェクトが同時進行中で、開院までには特大の花を咲かせるべく情報処理室は誠心誠意頑張っています。

<会計システム新規開発プロジェクト>

当部署の山路と、受付主任の足立が担当者となり、2010年1月より業者の選定・入札を行い、プログラムを知らない2人が打合せをしますので、SEさんとの間で難解な言葉の壁もあり、たくさん悔しい思いをしながら、ゼロから学んで、悩んで、患者さんを待たせない、新人でも使える会計システムを目指し、1年間努力を重ねてきました。知識不足により、膨大な打合せ時間となりましたが、諦めず、素人にわかるよう細かく説明してくださった、株式会社OECの羽田氏、永野氏には心より感謝しています。

2人の努力の結晶であるこのシステムも3月1日から稼動しています。

受付へ会計パソコンが設置された瞬間に、担当者2人が流した喜びの涙を見て、感動して涙してしまった株式会社OEC担当者、3人の努力が花開いた時に見せた涙は、決して忘れられないものとなりました。

<予約システム導入プロジェクト>

患者さんの予約の電話で受付業務が滞り、患者さんの会計処理が遅くなり患者さんを待たせてしまうというサイクルを失くすため、院長の大英断により、当部署主任の平松、受付部長の越名の2人が担当で、予約システムを導入することとなりました。

導入している施設の見学から始まり、業者との打合せ、打合せ中に夢は大きく巨大に広がり、膨大な量のカスタマイズが…。基本ソフトを使えなくてはカスタマイズも無駄になるということで、基本に立ち返り、1番に患者さんことを念頭において、2人で何度も話し合いを重ねていました。このシステムも開院と同時に導入され、患者さんの利便は格段に向上すると思われます。導入まで、まだ時間がありますが、会計システムと同じように、導入時にはこの2人も感動の涙を流せるくらい、このプロジェクトに没頭していってもらいたいと思います。

<SarahBase 新ツール開発プロジェクト>

患者さんの名前の読み間違い、書き間違いは、新しい間違った命を生み出すかもしれない恐ろしい可能性を秘めています。しかし、検体スピッツや検査依頼書、注射や点滴への記名など、現場では常に手書きしなくてはならず、常に緊張が強いられています。

私たちは、根本的な間違いの根絶のため、患者IDをバーコード化、ペーパーレス化して、患者さんから預かった診察券や、カルテにあるバーコードを読み取り、名前や生年月日をシールに打ち出せるよう、SarahBase 追加機能開発のため、看護部は川村と副師長の越光、副師長の篠田、研究室・培養室から主任の後藤と副室長の長木、受付からは主任の足立、当部署からは私がIT委員として担当し、打合せを重ねてきました。

部署を越えて使うシステムなので、大規模なカスタマイズとなり、慎重に慎重に打合せが進められ、22ページに渡る詳細な仕様書も完成し、現在、株式会社ライジンシャが開発中で、新病院移転とともに稼動予定です。

* SarahBase 新ツール

1. ホルモン測定依頼の電子化
2. ART 培養終了リスト作成
3. 本日の予定 (EM、本日の採卵結果、IUI 予定表、ART 予定表、ET 予定表、
　　体外受精観察結果一覧)
4. 精液検査予約確認画面
5. 患者個人認証用バーコード発行

システムに関わる大きな3つのプロジェクトと同時に、厚生労働省科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」の分担研究者に院長が選ばれ、その研究のお手伝いもさせていただきました。2005年時の日本受精着床学会実態調査委員に院長が選ばれた際もお手伝いさせていただいたのですが、その時よりもさらに大規模で、以前は1回きりであったのが、今回は調査が10年以上にも亘って毎年行われるものであり、2013年夏には、日本受精着床学会学術講演会会長に院長が任命されておりまし、引越ししたらゆっくりできるなど考えず、気をゆるめずに、今回の引越しまでの経験を大きな糧にして、3人で更に成長していくかなくてはと緊張しています。

何処かのテレビの受け売りではありませんが、子どもは「無限の樹形図」なのだと思います。子どもが無限の樹形図を描いていくのだとすれば、セント・ルカ産婦人科は無限の樹形図を描くために必要な大地（患者さんご夫婦）を支える、大切なミネラルなのかかもしれません。人が生きるためにミネラルが必要なように、患者さんにとって、セント・ルカ産婦人科は無くてはならない病院だと思っています。

7月からは新たな場所で、患者さんの希望が詰まった診療がはじまります。

私たち情報処理室スタッフも、3人でしっかりと手と信頼を繋いで、院長以下全てのスタッフが、患者さんに集中できる環境作りのお手伝いができるように、しっかりと頑張っていきたいと思っています。

工藤 由香



新病院に向かって

厨房

この度の東日本大震災で被害に遭われた多くの方々へ、心より御見舞申し上げます。

山肌を新芽が淡い緑色に染め、この時を待っていたかのように、あちらこちらに桜たちが白い綿毛をつけ始めました。

院長の大きな夢の実現という桜ももうすぐ咲きます。

新病院に向けて、私たちも大きく羽ばたくチャンスを与えていただいたような気がします。

“新”といえば、昨年4月から21歳の新人が厨房で勤務しています。若いので、元気が良く、いろいろと質問を受けることも多く、おかげで私も初心に戻ることができ、いろいろ見直すことができました。

新しいメニューは少しづつ取り入れていますが、新病院になっても開院当時からの「家庭料理を」というコンセプトをベースとして、四季折々の行事料理も守っていかなければと考えています。

7月の開院までの準備は、職員一同力を合わせ成し遂げなければならない大仕事です。気は抜けません。しかし、迫って来るタイムリミットに焦る気持ちでいっぱいです。

この津守の地で働く残された時間を、この厨房に「ありがとう」の気持ちを込め、しっかりとみがき、踏みしめ、勤め上げたいと思います。

矢野 千恵美



新病院に向けてのあゆみ

2009 年

- 7.31 設計会社 7 社に対し、説明会開催
8.21 第 1 回コンペ開催（対象：7 社）
9. 7 第 2 回コンペ開催（対象：4 社）
9.16 第 3 回コンペ開催（対象：2 社）
9.29 福岡山王病院施設見学（工藤、越名、熊迫、篠田、後藤裕、河邊、院長）
9.30 設計会社：株式会社ヴィン設計工房に決定
10. 6 福岡山王病院施設見学（河邊、事務長、院長、ヴィン設計工房小田氏）
10.14 株式会社ヴィン設計工房打合せ
10.28 株式会社ヴィン設計工房打合せ
10.28 SarahBase 新機能開発に向けて院内 IT 委員会始動
11. 5 株式会社ヴィン設計工房打合せ
11. 9 株式会社ヴィン設計工房打合せ
11.13 株式会社ヴィン設計工房打合せ
11.17 林浩治経営会計事務所 スタッフに対しての説明会開催
11.20 林浩治経営会計事務所打合せ（事務長・院長）
11.25 株式会社ヴィン設計工房打合せ
12. 2 株式会社ヴィン設計工房 院内見学及び計測
12. 3 株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
12. 4 株式会社ヴィン設計工房 院内見学及び計測
12.11 株式会社ヴィン設計工房打合せ（ラボ・看護部）
12.15 株式会社ヴィン設計工房 家具計測
12.16 株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
12.19 IVF 大阪クリニック新病院内覧会（河邊、院長、ヴィン設計工房小田氏）
12.25 株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）

2010 年

1. 6 林浩治経営会計事務所打合せ（事務長・院長）
1.11 株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
1.15 株式会社ヴィン設計工房打合せ（看護部）
1.18 受付予約システム開発チーム発足
1.20 株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
1.22 株式会社ヴィン設計工房打合せ（情報処理室・厨房・看護部・心理専門相談室）
1.25 株式会社ヴィン設計工房打合せ（ラボ）
2. 1 新会計システム開発チーム発足

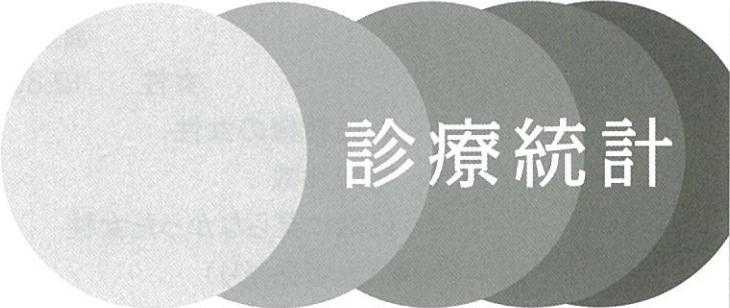
2. 3	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
2.13	株式会社ヴィン設計工房打合せ（ラボ）
3.19	株式会社ヴィン設計工房打合せ（ラボ）
4.10	株式会社ヴィン設計工房打合せ（ラボ・看護部）
4.12	株式会社ヴィン設計工房打合せ（情報処理室・受付）
4.19	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
5.10	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
5.31	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長・林浩治経営会計事務所）
6. 7	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
6.14	株式会社ヴィン設計工房打合せ（情報処理室・看護部）
6.21	建設会社向け説明会開催（対象：9社）
7.12	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
7.16	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
7.22	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長・林浩治経営会計事務所）
7.27	新会計システムキックオフミーティング
8. 2	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
8. 3	建設会社：株式会社佐伯建設に決定
8. 3	株式会社ヴィン設計工房・株式会社佐伯建設打合せ（事務長・院長）
8.17	起工式
9. 2	第1回建設準備室会議
9. 3	第1回新病院建築状況撮影・現場事務所挨拶
9. 5	デジタルレントゲン導入工事
9. 6	デジタルレントゲン稼動
9. 6	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
9. 9	第2回建設準備室会議
9.16	第3回建設準備室会議
9.18	第2回新病院建築状況撮影
9.29	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
9.30	第4回建設準備室会議
10. 7	第5回建設準備室会議
10.12	第3回新病院建築状況撮影
10.14	第6回建設準備室会議
10.21	第7回建設準備室会議
11. 4	第8回建設準備室会議
11.12	第4回新病院建築状況撮影
11.18	第9回建設準備室会議
11.19	受付予約システムキックオフミーティング
12. 2	第10回建設準備室会議
12. 9	第11回建設準備室会議

12.15	第 12 回建設準備室会議
12.15	第 5 回新病院建築状況撮影
12.16	第 13 回建設準備室会議
12.21	新会計システム導入（テスト稼動）

2011 年

1.14	第 14 回建設準備室会議
1.20	第 15 回建設準備室会議
1.27	第 16 回建設準備室会議
1.28	第 6 回新病院建築状況撮影
2. 3	第 17 回建設準備室会議
2.10	第 18 回建設準備室会議
2.12	第 7 回新病院建築状況撮影
2.17	第 19 回建設準備室会議
2.21	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
3. 1	新会計システム本稼動
3. 3	第 20 回建設準備室会議
3. 9	第 8 回新病院建築状況撮影
3. 9	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
3.18	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
3.23	株式会社ヴィン設計工房打合せ（看護部・事務長・院長）
3.30	上棟式
3.31	株式会社ヴィン設計工房打合せ（看護部）
4. 1	第 9 回新病院建築状況撮影
4. 1	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
4. 2	株式会社ヴィン設計工房打合せ（看護部・心理専門相談室）
4. 4	株式会社ヴィン設計工房打合せ（看護部・事務長・院長）
4. 6	株式会社ヴィン設計工房打合せ（厨房・受付）
4.15	第 10 回新病院建築状況撮影
4.25	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長・院長）
4.27	株式会社ヴィン設計工房打合せ（情処・受付）
4.28	株式会社ヴィン設計工房打合せ（事務長）
4.30	第 11 回新病院建築状況撮影
4.30	株式会社ヴィン設計工房打合せ（医局）

(2011.4 現在)



診療統計

外来患者および妊娠結果の内訳

(2010.12.31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院(1992.6.3) ~ 本年(2010.12.31)までの外来患者数

19,792 人

(内訳) 男性 6,959 人 (35.2%) (平均年齢 33.7 才)
正常 3,519 人 (50.6%) 未検査・未診断 221 人 (3.2%)
異常 3,219 人 (46.2%)

女性 12,833 人 (64.8%) (平均年齢 31.3 才)

・ 挙児希望の女性 9,886 人 (77.0%) (平均年齢 31.4±4.5 才)
・ 妊娠件数 5,768 件 (平均年齢 31.9±4.2 才)
・ 妊娠に至らなかった女性 4,908 人

2) 妊娠率(患者あたり) **50.4%** { (9,886 - 4,908) / 9,886 }

3) 治療を途中で諦めた女性 4,571 人 (46.2%)

A) 諦めざるをえなかった人(無精子症,早発閉経,高齢など) 977 人 (9.9%)
B) いつの間にか諦めた人 3,594 人 (36.4%)

4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり) **79.1%** { (9,886 - 4,908) / 9,886 - (4,571 - 977) }

5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり) **93.7%** { (9,886 - 4,908) / (9,886 - 4,571) }

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	4,243 例	(73.56%)
流産	1,238 例	(21.46%)
子宮外妊娠	162 例	(2.81%)
胞状奇胎	14 例	(0.24%)
中絶	1 例	(0.02%)
不明	110 例	(1.91%)
計	5,768 例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の 4,243 例中、妊娠結果が判明している 3,855 例について)

1) 妊娠結果

満期産	3,339 例	(86.61%)
満期産+死産*	2 例	(0.05%)
満期産+外妊*	1 例	(0.03%)
早産	382 例	(9.91%)
早産+死産*	8 例	(0.21%)
過期産	17 例	(0.44%)
死産	47 例	(1.22%)
流産	45 例	(1.16%)
流産+死産*	1 例	(0.03%)
奇形中絶	8 例	(0.21%)
人工妊娠中絶	5 例	(0.13%)
計	3,855 例	(100%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

単胎	3,523 例	(91.4%)	3,523 児
双胎	316 例	(8.2%)	632 児
品胎	16 例	(0.4%)	48 児
計	3,855 例	(100%)	4,203 児

3) 出生児の状態

正常	3,252 児	(77.4%)
低体重児	701 児	(16.7%)
異常(死産等含む)	250 児	(5.9%)
(うち奇形を含む主な異常)	(142 児)	(3.4%)
計	4,203 児	(100%)

4. 妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	2,338 例	(40.5%)
IVF-ET(体外受精)	651 例	(11.29%)
MF-ET(顕微授精)	818 例	(14.18%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	826 例	(14.32%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38 例	(0.66%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5 例	(0.09%)
ART(生殖補助医療)以外	3,430 例	(59.5%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	762 例	(13.21%)
hMG+hCG, Gn-RHa	622 例	(10.78%)
クロミフェン	444 例	(7.70%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	678 例	(11.75%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	394 例	(6.83%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	381 例	(6.61%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	3 例	(0.05%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.26%)
その他	131 例	(2.27%)
計	5,768 例	(100%)

(2010/12/31 セント・ルカ産婦人科)

外来・入院数 (2010.1.1~2010.12.31)

	入 院	外 来
1月	112	1,732
2月	134	1,854
3月	141	2,021
4月	90	1,554
5月	125	1,641
6月	107	1,747
7月	87	1,544
8月	161	1,900
9月	139	1,882
10月	112	1,908
11月	120	1,852
12月	147	1,830
合計	1,475	21,465

入院数 (2010.1.1~2010.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	19	19	15	15	12	12	13	24	17	13	14	8	181
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	0	2	5	5	4	4	3	2	6	5	6	3	45
腹腔鏡下卵巣腫瘍核出術	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	7
子宮内容除去術 (流産のため)	2	2	4	5	6	1	4	7	4	5	9	6	55
子宮筋腫核出術	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6
卵巣腫瘍核出術	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	4	0	1	1	2	1	2	0	0	0	0	1	12
子宮内膜搔爬術	1	0	1	4	0	0	2	1	0	0	1	1	11
卵胞穿刺術	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4
その他	2	0	2	1	0	3	1	4	1	0	1	3	18
合 計	32	25	30	33	24	23	25	38	29	25	33	24	341

安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	0	0	2	0	1	1	0	0	0	1	1	3	9
切迫流産安静	0	0	2	0	0	2	1	0	1	1	1	1	9
その他	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	6
合 計	1	1	4	0	3	3	1	2	1	2	2	4	24

体外受精入院													
採卵	32	53	46	16	55	28	23	63	46	30	51	51	494
胚移植	16	25	22	2	24	18	10	26	25	15	16	30	229
凍結胚移植	31	30	39	39	19	35	28	32	38	40	18	38	387
GIFT,ZIFT,TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	79	108	107	57	98	81	61	121	109	85	85	119	1,110

入院総計	112	134	141	90	125	107	87	161	139	112	120	147	1,475
------	-----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

妊娠数 (1992.6.3~1996.12.31)

	周期	1992	1993	1994	1995	1996
体外受精 胚移植	採卵	63	213	266	270	279
	移植	50	153	200	221	247
	妊娠	2 (4.0 %)	23 (15.0 %)	51 (25.5 %)	61 (27.6 %)	55 (22.3 %)
顯微授精 胚移植	採卵	0	33	167	246	239
	移植	0	20	130	210	222
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (5.0 %)	16 (12.3 %)	36 (17.1 %)	36 (16.2 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	0	5	7	20	52
	移植	0	5	7	19	52
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (14.3 %)	0 (0.0 %)	6 (11.5 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	2	43	30	17	8
	移植	1	42	30	17	8
	妊娠	0 (0.0 %)	10 (23.8 %)	10 (33.3 %)	5 (29.4 %)	4 (50.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	4	10
	移植	0	0	0	4	10
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (20.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	7	2	9	2
	移植	0	6	2	9	2
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (16.7 %)	0 (0.0 %)	1 (11.1 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	1	8	0
	移植	0	1	1	8	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	3 (37.5 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	65	297	466	554	538
	凍結融解周期	0	5	7	20	52
	移植	51	227	370	488	541
	妊娠	2 (3.9 %)	35 (15.4 %)	78 (21.1 %)	106 (21.7 %)	103 (19.0 %)

ART*以外の妊娠数	96	215	214	247	203
妊娠総数	98	250	292	353	306

*生殖補助医療

妊娠数 (1997.1.1～2001.12.31)

	周期	1997	1998	1999	2000	2001
体外受精 胚移植	採卵	329	282	253	154	119
	移植	276	225	224	121	93
	妊娠	54 (19.6 %)	48 (21.3 %)	62 (27.7 %)	37 (30.6 %)	41 (44.1 %)
顯微授精 胚移植	採卵	224	265	342	317	377
	移植	192	227	276	238	283
	妊娠	35 (18.2 %)	31 (13.7 %)	34 (12.3 %)	50 (21.0 %)	63 (22.3 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	90	122	107	170	195
	移植	88	121	93	153	140
	妊娠	15 (17.0 %)	29 (24.0 %)	23 (24.7 %)	32 (20.9 %)	48 (34.3 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	15	19	6	9	1
	移植	15	19	6	9	1
	妊娠	4 (26.7 %)	2 (10.5 %)	1 (16.7 %)	2 (22.2 %)	0 (0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	3	11	4	10	1
	移植	3	11	4	10	1
	妊娠	0 (0.0 %)	2 (18.2 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	2	0	0	0	0
	移植	2	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	1	5	0	1	0
	移植	1	5	0	1	0
	妊娠	0 (0.0 %)	2 (40.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	1	2	0	0	0
	移植	1	2	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	574	582	605	491	498
	凍結融 解周期	91	124	107	170	195
	移植	578	610	603	532	518
	妊娠	108 (18.7 %)	115 (18.9 %)	121 (20.1 %)	121 (22.7 %)	152 (29.3 %)

ART以外の妊娠数	177	177	153	169	169
妊娠総数	285	292	274	290	321

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

妊娠数 (2002.1.1～2006.12.31)

	周期	2002	2003	2004	2005	2006
体外受精 胚移植	採卵	172	139	103	62	98
	移植	123	100	69	38	48
	妊娠	41 (33.3 %)	36 (36.0 %)	25 (36.2 %)	17 (44.7 %)	20 (41.7 %)
顯微授精 胚移植	採卵	344	420	436	451	414
	移植	215	279	328	297	267
	妊娠	45 (20.9 %)	65 (23.3 %)	72 (22.0 %)	74 (24.9 %)	74 (27.7 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	255	238	218	249	251
	移植	171	185	187	234	240
	妊娠	48 (28.1 %)	37 (20.0 %)	47 (25.1 %)	54 (23.1 %)	57 (23.8 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融解周期	0	0	6	18	9
	移植	0	0	5	13	6
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	6 (46.2 %)	2 (33.3 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	1	1	1	0	0
	移植	1	1	1	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	0	0	1	0	0
	移植	0	0	1	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	2	6	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	517	560	543	519	512
	凍結融解周期	255	238	224	267	260
	移植	510	565	591	582	561
	妊娠	134 (26.3 %)	138 (24.4 %)	144 (24.4 %)	151 (25.9 %)	153 (27.3 %)

ART*以外の妊娠数	168	157	167	205	181
妊娠総数	302	295	311	356	334

*生殖補助医療

妊娠数 (2007.1.1～2010.12.31)

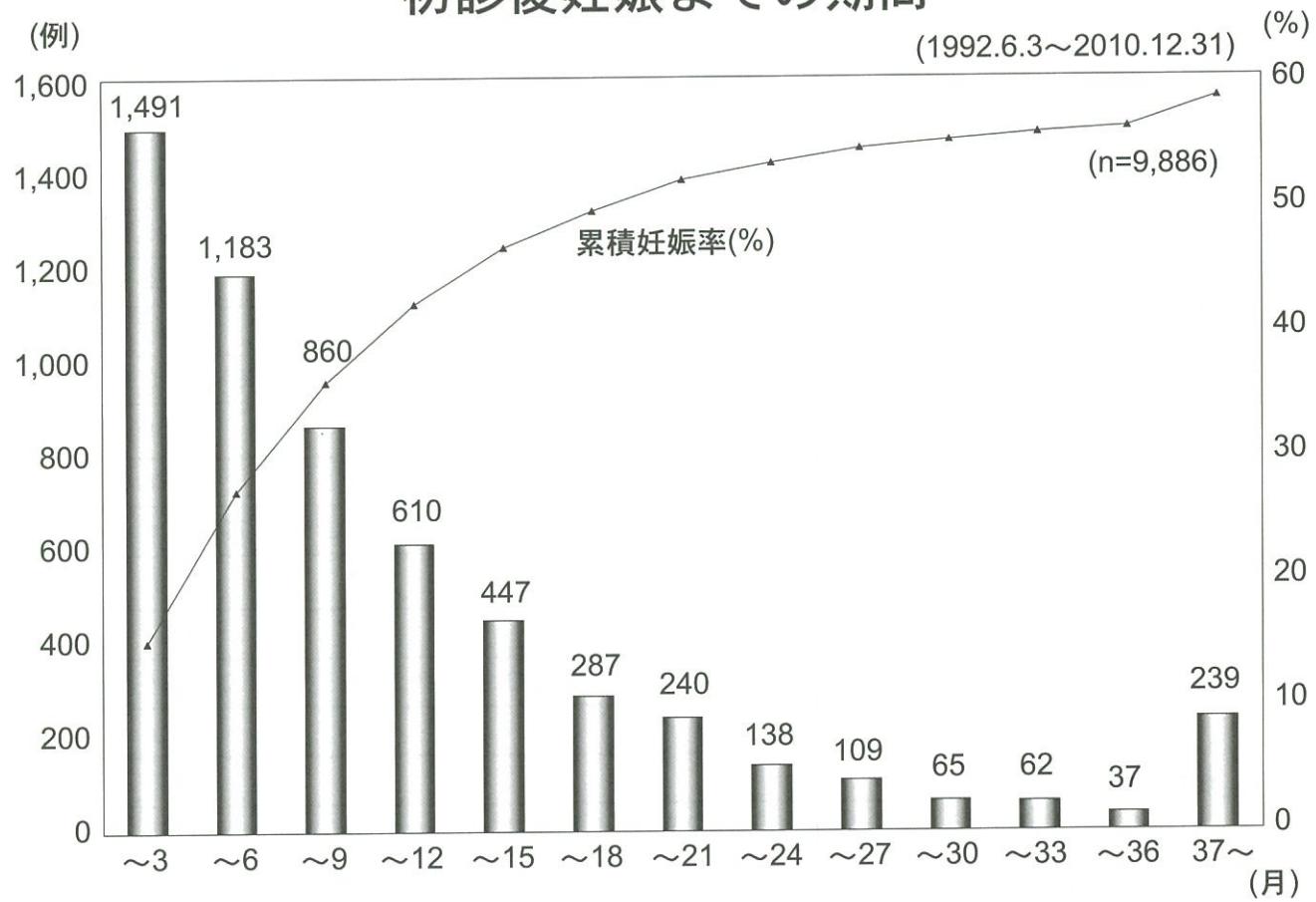
	周期	2007	2008	2009	2010	合計
体外受精 胚移植	採卵	155	111	90	77	3,235
	移植	89	58	34	22	2,391
	妊娠	36 (40.4 %)	20 (34.5 %)	13 (38.2 %)	7 (31.8 %)	649 (27.1 %)
顯微授精 胚移植	採卵	424	386	360	413	5,858
	移植	237	208	212	206	4,047
	妊娠	58 (24.5 %)	37 (17.8 %)	38 (17.9 %)	48 (23.3 %)	813 (20.1 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	375	423	389	392	3,558
	移植	353	396	364	370	3,178
	妊娠	76 (21.5 %)	80 (20.2 %)	103 (28.3 %)	134 (36.2 %)	790 (24.9 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	24	28	19	22	126
	移植	21	24	17	17	103
	妊娠	7 (33.3 %)	8 (33.3 %)	6 (35.3 %)	6 (35.3 %)	35 (34.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	153
	移植	0	0	0	0	151
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.2 %)
接合子 卵管内移植	採卵	1	0	0	0	44
	移植	1	0	0	0	44
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.4 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	22
	移植	0	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	18
	移植	0	0	0	0	18
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (27.8 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	8
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	580	497	450	490	9,338
	凍結融 解周期	399	451	408	414	3,687
	移植	701	686	627	615	9,956
	妊娠	177 (25.2 %)	145 (21.1 %)	160 (25.5 %)	195 (31.7 %)	2,338 (23.5 %)

ART [*] 以外の妊娠数	189	196	177	170	3,430
妊娠総数	366	341	337	365	5,768

*採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

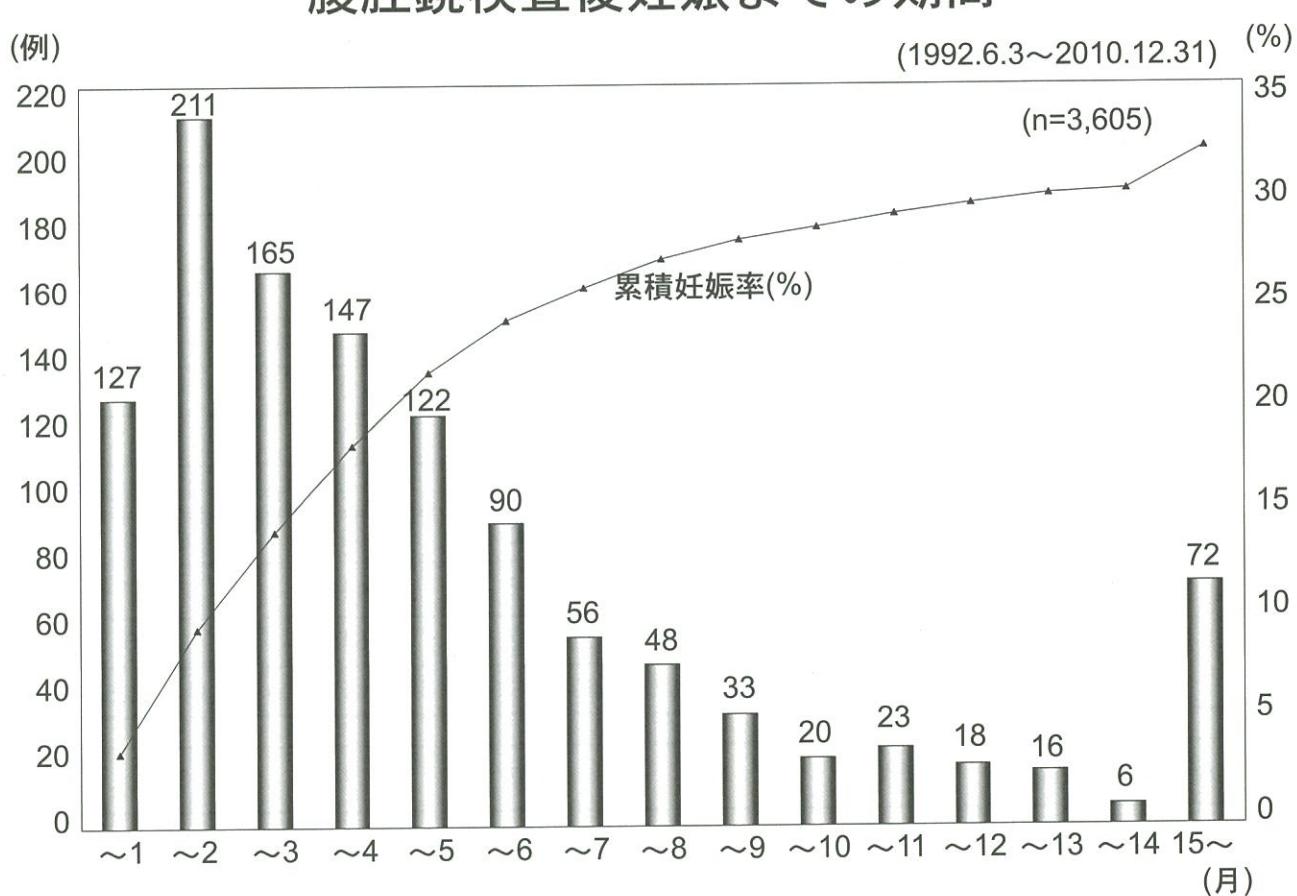
初診後妊娠までの期間

(1992.6.3~2010.12.31)

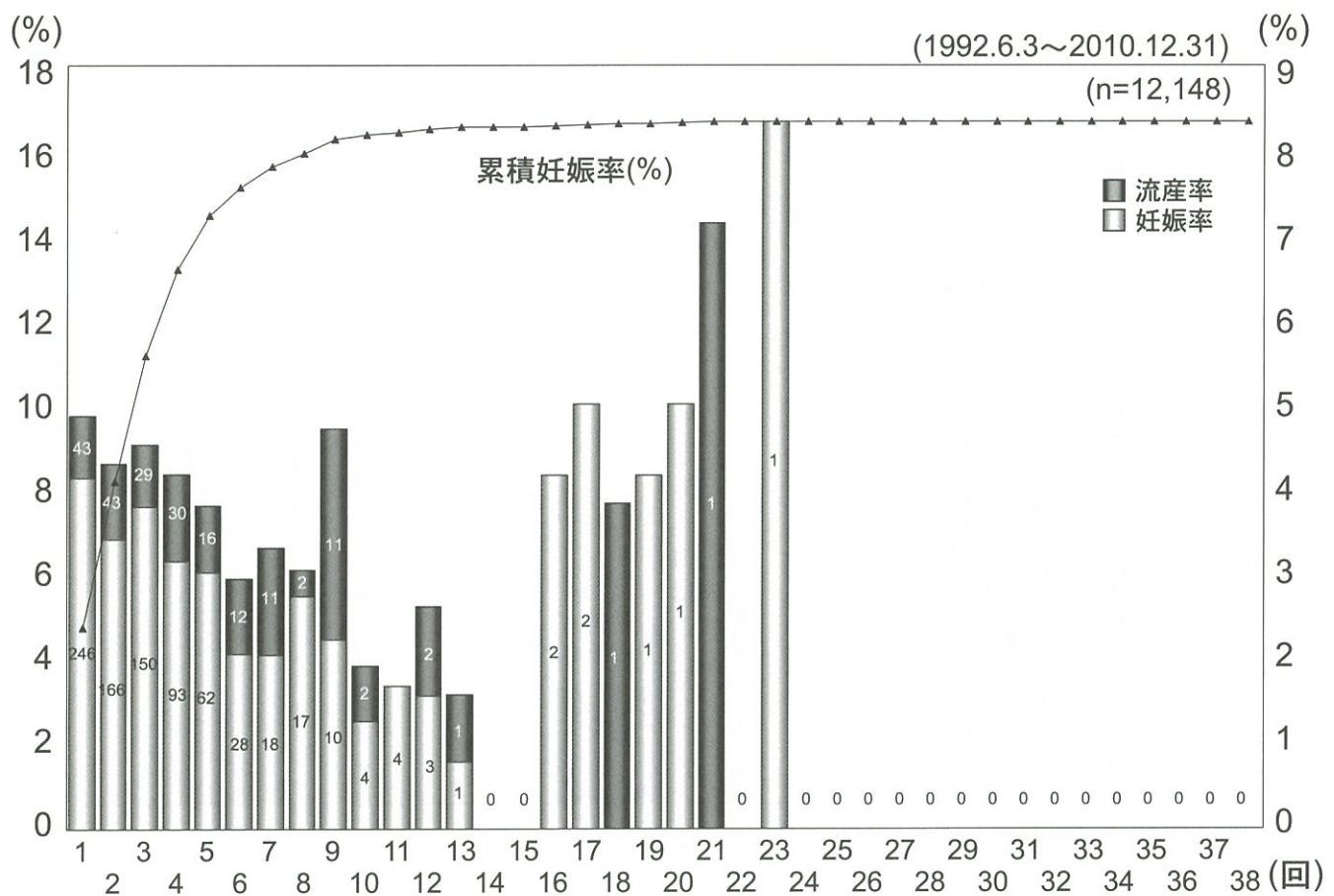


腹腔鏡検査後妊娠までの期間

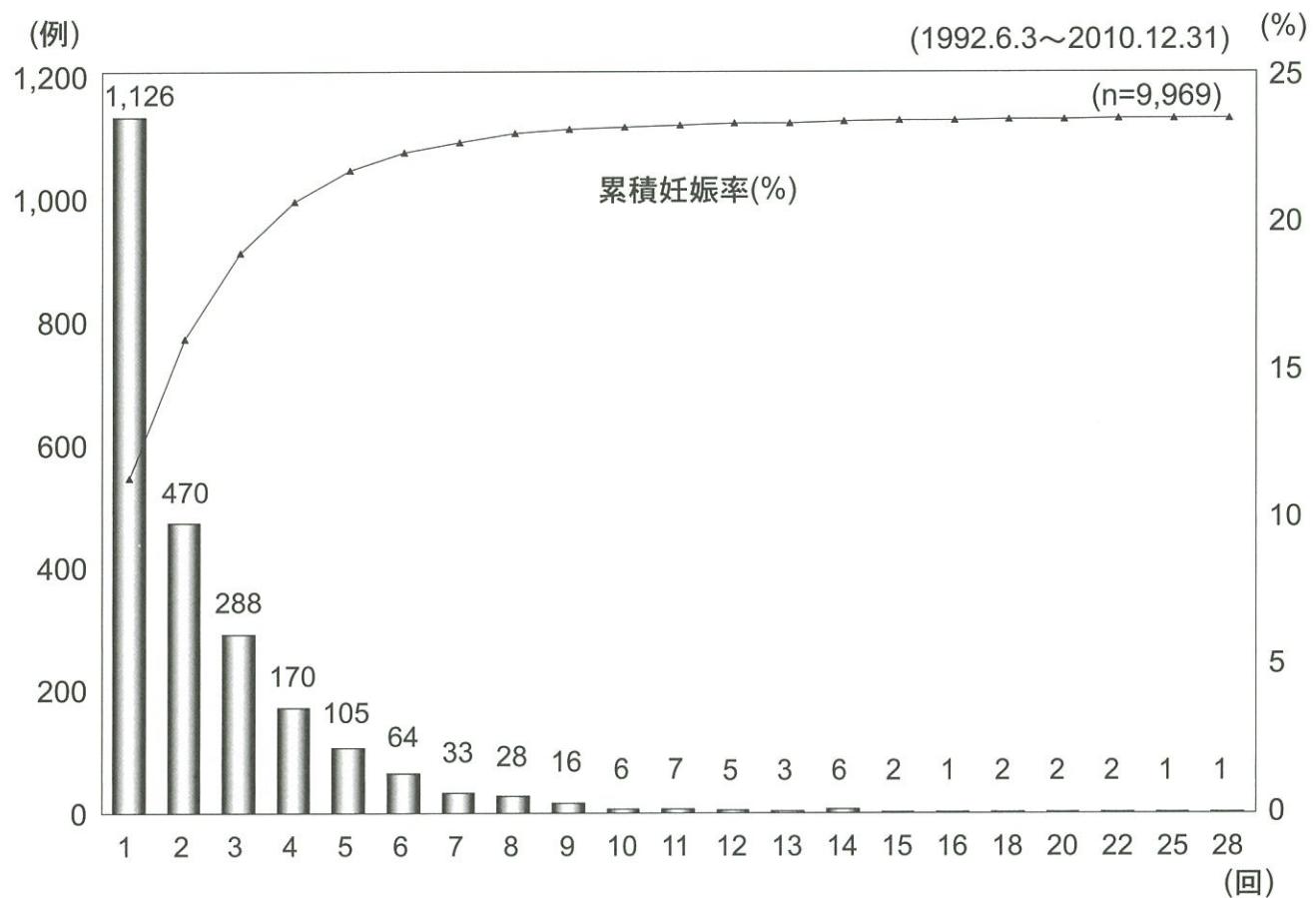
(1992.6.3~2010.12.31)



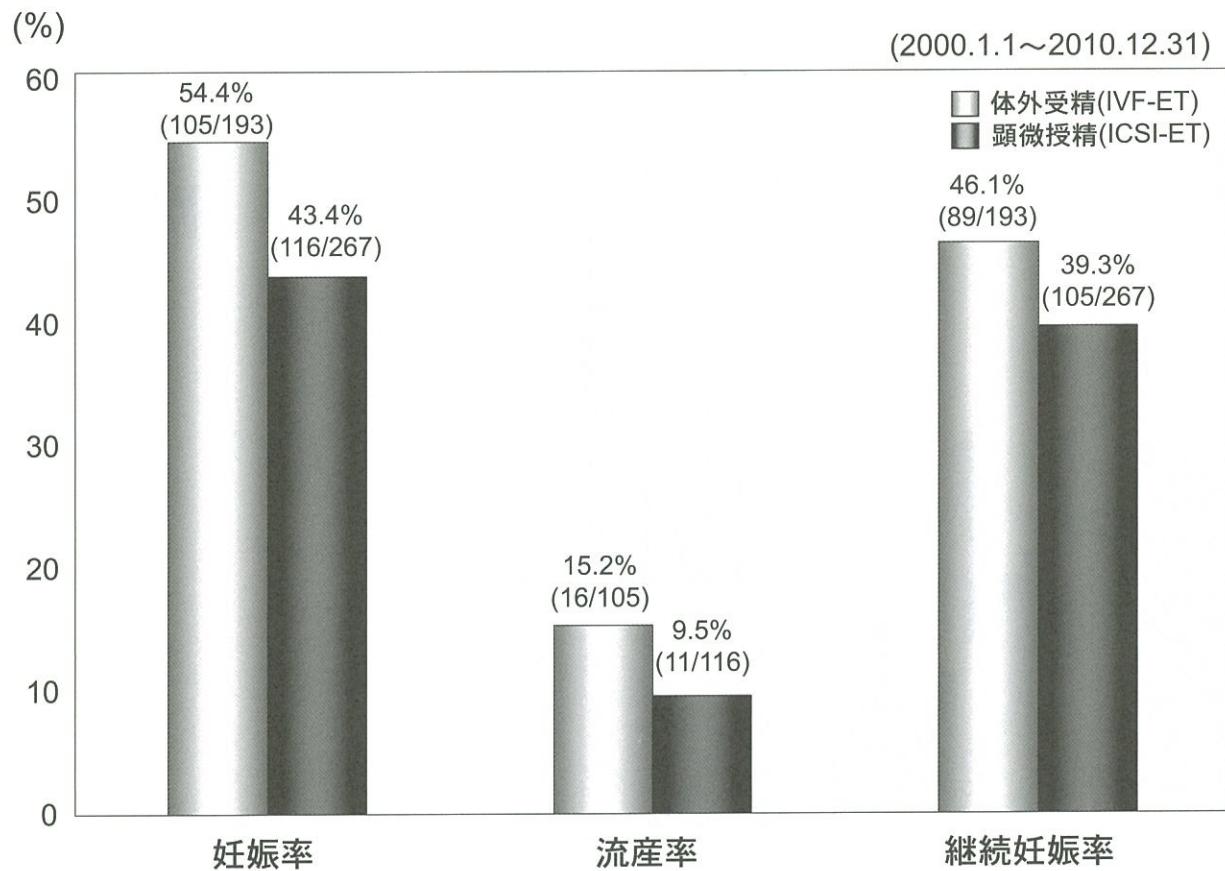
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



ART(生殖補助医療)による妊娠 (1992.6.3~2010.12.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	3,258	2,412 (74.0)	651 (27.0)	160 (24.6)
MF-ET (男性因子 以外も含む)	5,884	4,065 (69.1)	818 (20.1)	234 (28.6)
(ICSI)	5,430	3,967 (73.1)	807 (20.3)	229 (28.4)
GIFT	153	151 (98.7)	38 (25.2)	13 (34.2)
ZIFT	44	44 (100)	5 (11.4)	1 (20.0)
CRYO-ET	3,687	3,284 (89.1)	826 (25.2)	242 (29.3)
ART.total	13,026	9,956 (76.4)	2,338 (23.5)	650 (27.8)

ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(1992.6.3~2010.12.31)

出産周期	1,501 周期	妊娠結果が判明している1,501周期に限る		
妊娠結果				
満期産	1,214 周期 (80.88%)	死産	22 周期 (1.46%)	
満期産、死産*	2 周期 (0.13%)	流産	21 周期 (1.40%)	
満期産、外妊*	1 周期 (0.07%)	流産、死産*	1 周期 (0.07%)	
早産	225 周期 (14.99%)	奇形中絶	4 周期 (0.27%)	
早産、死産*	6 周期 (0.40%)	人工妊娠中絶	2 周期 (0.13%)	
過期産	3 周期 (0.20%)			
多胎妊娠について	1,742 児	単胎	1,271 例 (84.7%)	1,271 児
		双胎	219 例 (14.6%)	438 児
		品胎	11 例 (0.7%)	33 児
低体重児	417 児 (23.9%)			
異常児	138 児 (7.9%)	うち奇形を含む主な異常	82 児 (4.7%)	

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

異常児の詳細 (1992.6.3~2010.12.31)

主な異常	142 児	142 児 ／ 4,203 児 (3.4%)		うち ART [*] 児: 82児／1,742児 (4.7%)		ART以外児: 60児／2,461児 (2.4%)	
		ART	ART以外			ART	ART以外
染色体異常	10 児	6 児	関節異常			2 児	0 児
脳・神経系異常	10 児	9 児	胎児水腫			3 児	4 児
心臓・血管系異常	15 児	17 児	腫瘍			1 児	1 児
内臓疾患	6 児	4 児	ヘルニア			3 児	2 児
甲状腺機能低下症	2 児	2 児	停留精巣			1 児	0 児
縦隔気腫	1 児	1 児	小人症疑い			0 児	1 児
胸郭低形成	1 児	0 児	Cornelia de Lange症候群			1 児	0 児
耳鼻系異常	1 児	3 児	Russell-Silver症候群			0 児	1 児
眼系疾患	1 児	1 児	Sturge-Weber症候群			0 児	1 児
小顎症	0 児	1 児	奇形中絶			3 児	1 児
口唇裂・口唇蓋裂	11 児	3 児	出産後死亡			5 児	1 児
手足形成異常	5 児	1 児					

*生殖補助医療



セント・ルカ産婦人科

1年のあゆみ

セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2010.1.1～2010.12.31)

学会発表	39題
院長	5
看護部	16
研究室・培養室	18
学会講演会参加	37回
研修会	26回
論文	1編
著書（共著）	5編
主催講演	4回
セント・ルカセミナー	1 総参加人数 86名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	3 総参加人数 225名
講演・講師	15回
院長	13
看護部	1
研究室・培養室	1
不妊カウンセラー活動	35回
新患教室	9 総参加人数 472名
体外受精教室	12 総参加人数 614名
ガーネットサークル	4 総参加人数 16名
オリーブの会	10 総参加人数 41名
院内講習会	4回
京都大学名誉教授、NPO 法人生殖再生医学アカデミア理事長 森崇英先生ご来院・ご指導	1回
高度生殖医療技術研究所所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	1回
東北大学未来医工学治療開発センター准教授 有馬隆博先生ご来院・ご指導	1回
福岡山王病院病院長 中村元一先生ご来院・ご指導	1回

行事一覧(1)

- 2010 1.5 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
1.8 河邊外来開始『診療内容：一般不妊治療(再診のみ)・更年期・婦人科・思春期』
1.8 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』取材
1.9 第45回新患教室 参加者60名 参加<佐藤、手島、深田、足立直、後藤裕、上野>
1.12 第130回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1.16 第153回体外受精教室 参加者46名 参加<岡田、井澤、二宮>
1.16 第6回第6期オリーブの会 参加者7名
1.18 新職員 池田香澄さん(看護部)
1.18 受付予約システム開発チーム発足
1.19 大分県地域保健支援センター(大分) 参与 谷口一郎先生ご講演のためご来院
ご講演：「子宮頸がんの病態とHPVワクチン」
1.19 ISO9001内部監査キックオフミーティング
1.21 院内全体研修：防災訓練「緊急連絡網の確認」(担当：培養室・検査室)
1.23 非配偶者間フォローアップ部会打合せ会議(東京) 参加<上野>
1.24 第7回日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<小池、城戸、後藤裕、指山、院長>
発表：「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～「治療終結を決意した元患者を囲む会」の語りから～」(上野桂子)
1.26 院内全体研修：言葉の乱れ2(担当：受付)
1.30 第41回ガーネットサークル OG1名、参加者4名
2.1 新会計システム開発チーム発足
2.6 第46回新患教室 参加者46名 参加<大津、手島、深田、足立直、後藤裕、上野>
2.9 第131回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2.13 第154回体外受精教室 参加者65名 参加<岡田、井澤、二宮>
2.13 第7回第6期オリーブの会 参加者5名
2.13 第5回2009年度(第3期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京)
講師<上野> 参加<関>
2.15 新職員 松吉律児さん(看護部)
2.20 第13回胎児遺伝子診断研究会(東京) 参加<城戸、大津、院長>
発表：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の成績と
出産時に採取した臍帯血のメチル化インプリントの解析」(佐藤晶子)
2.21 日本生殖再生医学会 第5回学術集会(東京) 参加<城戸、院長>
発表：「ヒト人工多能性幹細胞(iPS)細胞のゲノムインプリントの解析」(佐藤晶子)
「マウス卵子での加齢によるタンパクの変化」(大津英子)
2.23 第101回大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤、佐土原、西郡、足立小、越名、
城戸、大津、長木、松吉、相澤、川村、井澤、二宮、足立直、赤嶺、篠田、後藤裕、指山、
上野、院長>
発表：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の成績と
出産時に採取した臍帯血のメチル化インプリントの解析」(佐藤晶子)
「治療継続のサポートのあり方」～初診時から半年以内～」(関こずえ)
2.26 福岡山王病院(福岡) 副院長 中村元一先生 腹腔鏡下子宮筋腫核出術手術指導のためご来院
2.27 第30回JISART理事会(東京) 参加<院長>
2.27 第6回2009年度(第3期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<関>
2.28 JISART審査員研修(東京) 参加<工藤、越名、後藤裕、院長>
3.1 新職員 坂本順子さん(看護部)
3.3 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』夏号(Vol.6)取材

行事一覧(2)

- 2010 3. 5 日本経済新聞「不妊治療における経済的負担」電話取材
3. 6 第8回第6期オリーブの会 参加者6名
3. 6 金沢医科大学生殖周産期医学(石川) 富澤英樹先生研究のためご来院
3. 9 第132回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.13 第41回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者84名
講師<後藤裕(看護副師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、西郡、足立小、長木、坂本、手島、相澤、深田、足立直、指山>
3.18 診療報酬改正に伴う県下一斎説明会(大分) 参加<佐土原、西郡、足立小、越名>
3.20 第三者の関わる生殖技術について考える会立ち上げ集会(東京) 参加<篠田、後藤裕、上野、
院長>
3.24 株式会社メディエンス代表取締役社長 池上文尋氏 オールアバウトジャパン不妊治療ガイド
取材のためご来院
3.26 平成22年4月法令改正 窓口対応ソフト変更説明会(大分) 参加<足立小、越名>
3.27 第155回体外受精教室 参加者63名 参加<坂本、手島、井澤、二宮>
3.27 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
3.30 院内全体研修：心肺蘇生法について(担当：研究室・培養室)
講師：救命士 二宮良次先生、曾宮尚文先生
4. 1 新職員 金子奈央さん(研究室・培養室)
4. 1 日本生殖医療心理カウンセリング学会 不妊相談士(不妊コンサルタント)認定
<看護部：関こずえ>
4. 2 第31回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、平松、
工藤、佐土原、西郡、足立小、越名、金子、佐藤、城戸、後藤香、熊迫、大津、手島、川村、
井澤、二宮、松元、足立直、斎高、赤嶺、越光、関、指山、上野、河邊>
「PGD and Epigenetics in reproduction」(院長)
「喫煙と健康障害」(大分労働衛生管理センター 所長 宮川勇生先生)
4. 3 第47回新患教室 参加者65名 参加<金子、佐藤、坂本、相澤、川村、深田、後藤裕、
足立直>
4. 6 福岡山王病院(福岡)手術見学 参加<越光、関、河邊、院長>
4. 9 3rd Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction(Thailand)
講演：「PGD and Epigenetics in reproduction」(院長)
ポスター発表：「The Evaluation of the pregnancy rate and of DNA methylation status
of children that were born by In Vitro Maturation」(佐藤晶子)
「Clinical efficacy of a novel evaluation method with measurement of the embryo
oxygen consumption rate using a scanning electrochemical microscopy」(熊迫陽子)
4. 9 第3回別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<城戸、大津>
4.17 第9回第6期オリーブの会 参加者3名
4.17 日本哺乳動物卵子学会常任理事会(東京) 参加<院長>
4.20 新職員 油野亜由美さん(厨房)
4.20 院内全体研修：統計解析について(情報処理室)
4.21 内閣府特命担当大臣 福島みづほ議員へ不妊治療費助成金制度の条件撤廃に関する陳情書提出
(東京) 参加<院長>
4.24 第156回体外受精教室 参加者58名 参加<金子、坂本、手島、井澤、二宮>
4.24 第6回ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者6名
4.24 JISART 非配偶者間生殖医療委員会(福岡) 参加<院長>
4.27 第133回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院

行事一覧(3)

- 2010 4.27 第 10 回セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
5. 1 新職員 山下久美さん(看護部)
5. 1 第 48 回新患教室 参加者 50 名 参加<金子、後藤香、山下、坂本、手島、足立直、関>
5. 8 第 6 回九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加<深田、井澤、越光、篠田、河邊>
発表：「挙児希望患者に対する Laparoscopic myomectomy(LM)と
2nd-look laparoscopy(2nd)の所見について」(院長)
5. 9 第 67 回日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<越光、篠田、上野>
第 1 群 [心理・看護] 座長：院長
発表：「移植胚選別困難例における胚呼吸量測定の有用性」(後藤香里)
「当院における IVM 培養と臨床成績について」(熊迫陽子)
「近親者の妊娠を知った不妊患者の心情」(深田留美)
「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「当院の卵巣過剰刺激症候群(OHSS)回避への対策」(院長)
5.11 第 134 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.15 第 157 回体外受精教室 参加者 35 名 参加<金子、大津、山下、岡田、二宮>
5.15 第 10 回第 6 期オリーブの会 参加者 4 名
5.19 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加<山路、平松、金子、山下、坂本、手島、相澤、
足立直、指山>
講義：「不妊症講座」(院長)
5.22 第 2 回 JISART 心理教育セミナー(宮城) 参加<上野>
5.22 第 3 回 JISART 事務教育セミナー(宮城) 参加<西郡、越名>
5.22 第 3 回 JISART ラボ教育セミナー(宮城) 参加<佐藤、熊迫>
5.22 第 7 回 JISART 看護教育セミナー(宮城) 参加<後藤裕、河野>
5.22 第 31 回 JISART 理事会(宮城) 参加<院長>
5.23 JISART 出版計画・編集委員会 ミーティング(宮城) 参加<院長>
5.23 第 8 回 JISART シンポジウム(宮城) 参加<西郡、越名、佐藤、熊迫、後藤裕、河野、上野、
院長>
5.25 鹿児島大学農学部生物生産学科(鹿児島) 松木祐枝さん院内見学のためご来院
5.25 ISO9001 マネジメントレビュー
5.29 第 42 回ガーネットサークル OG1 名、参加者 4 名
5.29 第 8 回日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(新潟) 参加<院長>
5.29 第 51 回日本哺乳動物卵子学会(新潟)
第一群 卵成熟・ICSI(1) 座長：院長
発表：「選択的単一胚移植(e-SET)における day3 胚の呼吸量測定の試み」(小池恵)
(口演部門学術奨励賞受賞)
「マウス卵子での加齢によるタンパクの変化」(大津英子)
5.29 第 5 回大分 減菌および感染対策研究会(大分) 参加<二宮、関>
6. 1 新職員 小野恵子さん(看護部)
6. 2 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.7)取材
6. 4 内田クリニック(島根)培養士 森山弘恵先生、加納英里先生 研究室・培養室見学のためご来院
(～6月5日まで)

行事一覧(4)

- 2010 6. 6 第 17 回セント・ルカセミナー
講師 松本亜樹子先生
<NPO 法人 Fine ~現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会~ 代表>
「不妊治療患者の負担を考える~当事者へのアンケートから~」
講師 村瀬嘉代子先生 <北翔大学大学院 人間福祉学研究科 教授>
「いのちを受けとめるということ」
講師 森崇英先生 <京都大学名誉教授、NPO 法人生殖再生医学アカデミア 理事長>
「原因不明着床不全」
講師 有馬隆博先生 <東北大学未来医工学治療開発センター 准教授>
「生殖補助医療とインプリンティング異常~遺伝から環境へのエピゲノミクス~」
講師 荒木康久先生 <高度生殖医療技術研究所 所長>
「未成熟精子細胞は、どこまで ART に有効か」
講師 大月純子先生 <永井クリニック 体外受精室長>
「培養成績を上げる為に考えるべきこと~最近の発見：真性半陰陽が起こる原因」
講師 山縣一夫先生 <理化学研究所神戸研究所 発生・再生科学総合研究センター>
「ライブセルイメージングを用いた哺乳動物初期胚のクオリティー評価」
(プログラム順)
6. 7 高度生殖医療技術研究所(群馬) 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
6. 8 第 135 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
6.12 第 49 回新患教室 参加者 63 名 参加<金子、小野、山下、坂本、手島、松土、足立直>
6.13 JISART 施設認定審査 審査員<後藤裕、上野>
6.13 大分県保険医協会主催 患者接遇・コミュニケーションセミナー(大分) 参加<佐土原、西郡、足立小、越名>
6.19 第 158 回体外受精教室 参加者 61 名 参加<金子、小野、山下、坂本、岡田、井澤、二宮>
6.19 大分県医師連盟医政講演会(大分) 参加<河邊、院長>
6.19 第 11 回第 6 期オリーブの会 参加者 4 名
6.22 第 102 回大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、平松、工藤、佐土原、西郡、足立小、越名、金子、小池、佐藤、城戸、後藤香、熊迫、長木、大津、小野、山下、坂本、手島、相澤、川村、井澤、後藤裕、二宮、斎高、赤嶺、河野、越光、関、篠田、指山>
発表：「生殖補助医療の最近の現状について(2010)」(院長)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～「治療終結を決意した元患者を囲む会」の語りから～」(上野桂子)
6.23 セントマザー産婦人科医院(北九州) 中島竜之先生、検査技師 赤星孝子先生 IVM 研修のため
ご来院
6.27 26th ANNUAL MEETING ESHRE 2010(Italy) 参加<城戸>
発表：「Infertility Patients' Mental Health Condition Using the Cornell Medical Index (CMI)」
(後藤裕子/指山実千代)
「Measurement of oxygen consumption rate of embryos to select
the best embryo for e-SET」(院長)
7. 3 第三者の関わる生殖技術について考える会勉強会(東京) 参加<城戸、越光、関、上野>
講演：「第三者の関わる生殖技術の現状ー産婦人科医師の立場から何が問題なのかー」(院長)
7. 3 第 1 回 2010 年度(第 4 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<篠田>
7. 4 日本産科婦人科学会『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医』
認定講習会(東京) 参加<城戸、大津、院長>
7.10 JISART 非配偶者間生殖医療に関するカウンセラー実務研修(大阪) 講師<上野> 参加<院長>
7.11 慶應義塾大学医学部産婦人科学教室(東京) 久慈直昭先生ご来院
7.13 第 136 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7.17 第 159 回体外受精教室 参加者 33 名 参加<油野、金子、小野、山下、岡田、井澤、二宮>

行事一覧(5)

- 2010 7.24 第42回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者78名
講師<篠田(看護副師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<平松、佐土原、金子、小池、小野、山下、坂本、松土、後藤裕、足立直、指山>
- 7.25 JISART 施設認定審査 審査員<院長>
- 7.27 新会計システムキックオフミーティング
- 7.28 第28回日本受精着床学会総会・学術講演会(神奈川) 参加<関、河邊>
シンポジウム講演:「生殖医療の現状」(院長)
シンポジウム基調講演:「IVMの変遷と現状、将来の展望」(院長)
ワークショップ5話題提供者:「患者の望む医療スタッフの関り」(上野桂子)
発表:「選択的単一胚移植(eSET)において移植胚選択に迷う症例での胚呼吸量測定の有用性」
(後藤香里)
- 「当院におけるIVM培養と臨床成績について」(熊迫陽子)
「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(赤嶺佳枝)
「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の在宅自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
- 「ART施設における40歳以上のサポート・グループの取り組みについて」(篠田多加子)
- 7.28 日本受精着床学会の際のJISART出版計画ラボ部門の打合せ(神奈川) 参加<後藤香>
- 7.29 第50回日本産科婦人科内視鏡学会(東京) 参加<関、篠田>
発表:「挙児希望患者に対するLaparoscopic myomectomy(LM)と
2nd-look laparoscopy(2nd)の所見について」(院長)
- 7.31 第3回MAAR国際会議(神奈川)
Session7講演:「The current approach to oocytes vitrification for cancer patients in Japan」
(院長)
- 8.2 毎日新聞より、「生殖補助医療の安全性」についての取材
- 8.3 第137回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
- 8.7 第160回体外受精教室 参加者36名 参加<小野、岡田、井澤、二宮>
- 8.7 第12回第6期オリーブの会 参加者3名
- 8.7 第2回2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<篠田>
- 8.10 2013年受精着床学会学術集会打合せ(別府) 参加<工藤、越名、事務長、院長>
- 8.12 第2回日韓ARTカンファレンス(兵庫) 参加<小池、長木>
講演:「Benefit of measuring embryo oxygen consumption for increasing pregnancy rate」
(院長)
- 8.17 医療法人セント・ルカ新病院建築起工式 参加<山路、工藤、矢野、西郡、越名、小池、
後藤香、大津、井澤、赤嶺、越光、篠田、指山、上野、河邊、事務長、院長>
- 8.18 平成22年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業研究吉村班会議(東京)
参加<工藤、院長>
- 8.21 第50回新患教室 参加者52名 参加<大津、小野、坂本、手島、後藤裕、篠田>
- 8.21 第8回第4期オリーブの会 参加者5名
- 8.22 JISART臨時役員会(東京) 参加<院長>
- 8.22 第9回生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加<院長>
- 8.24 2013年受精着床学会学術集会打合せ(大分) 参加<工藤、越名、事務長、院長>
- 8.25 大分県看護協会主催研修会「コミュニケーション(基礎編)
～患者に信頼されるコミュニケーションとは～」(大分) 参加<手島、相澤>
- 8.28 第43回ガーネットサークル OG1名、参加者4名
- 8.28 第17回臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加<城戸、大津>
- 8.31 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』冬号(Vol.8)取材

行事一覧(6)

- 2010 9. 1 第 11 回セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
9. 2 第 1 回大分県母性衛生学会実行委員会(大分) 参加<後藤裕>
9. 3 日本心理臨床学会 第 29 回秋季大会(宮城) 参加<上野>
9. 4 第 161 回体外受精教室 参加者 52 名 参加<大津、山下、井澤、二宮、越光>
9. 5 デジタルレントゲン導入工事
9. 6 デジタルレントゲン稼働
- 9.11 第 51 回新患教室 参加者 46 名 参加<大津、山下、松土、足立直、後藤裕、篠田>
- 9.14 第 138 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
- 9.18 第 13 回日本 IVF 学会(大阪) 参加<佐藤、長木>
シンポジウム講演：「ART における排卵誘発：卵巣予備能」(院長)
- 9.19 第 32 回 JISART 理事会(大阪) 参加<院長>
- 9.25 日本哺乳動物卵子学会常任理事会(東京) 参加<院長>
- 9.25 DI 研究会主催講演会(東京) 参加<院長>
- 9.25 第 3 回 2010 年度(第 4 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<篠田>
10. 2 第 162 回体外受精教室 参加者 29 名 参加<佐藤、山下、岡田、井澤、二宮、関>
10. 2 第 13 回第 6 期オリーブの会 参加者 2 名
10. 3 第 7 回大分県母性衛生学会学術集会(大分) 参加<山下、坂本、手島、川村、後藤裕、
足立直、松元、二宮、斎高、赤嶺、河野、篠田、指山、河邊、院長>
発表：「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(松土留美)
10. 6 第 41 回日本看護学会－成人看護 I－学術集会(別府) 参加<後藤裕、関>
10. 8 第 1 回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加<山下、坂本、手島、相澤、川村、岡田、
松土、足立直、松元、二宮、斎高、赤嶺、河野、越光、関、篠田、指山、院長>
- 10.12 第 1 回呼吸測定装置研究会産婦人科部会(宮城)
講演：「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の
選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(院長)
- 10.14 第 32 回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、平松、
佐土原、西郡、足立小、越名、金子、小池、佐藤、城戸、熊迫、長木、大津、山下、坂本、
手島、相澤、川村、岡田、井澤、後藤裕、足立直、松元、二宮、斎高、赤嶺、関、篠田、上野、
河邊、院長>
「クラミジア感染症と不妊症」
(自治医科大学医学部産科婦人科学講座 附属病院生殖医学センター 教授 柴原浩章先生)
- 10.16 第 52 回新患教室 参加者 45 名 参加<油野、佐藤、松土、後藤裕、足立直、関>
- 10.16 第 4 回 2010 年度(第 4 期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 講師<上野>
参加<篠田>
- 10.19 第 139 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
- 10.19 大分放送(OBS)より、「シリーズ次世代の英語力③英語が職場の公用語」取材のためご来院
- 10.20 大分放送(OBS)より、「シリーズ次世代の英語力③英語が職場の公用語」取材のためご来院
- 10.21 大分放送(OBS)「シリーズ次世代の英語力③英語が職場の公用語」放送
- 10.24 日本哺乳動物卵子学会 第 2 回生殖補助医療胚培養士セミナー(東京) 参加<小池、佐藤>
進行役：院長
講演：「培養液の管理と胚培養評価－ルーチンに組み込まれた培養のコンディション測定－」
(熊迫陽子)
- 10.25 66th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (Denver) 参加<院長>
発表：「Measurement of oxygen consumption rate of embryos to select
the best embryo for e-SET」(小池恵)

行事一覧(7)

- 2010 10.28 日本人類遺伝学会 第55回大会(埼玉) 参加<城戸、大津>
10.29 院内全体研修：防災訓練(担当：情報処理室)
11. 6 第43回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者63名
講師<篠田(看護副師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<工藤、越名、金子、佐藤、岡田、松土、後藤裕、足立直>
11.11 第55回日本生殖医学会総会・学術講演会(徳島) 参加<工藤、越名、上野>
ワークショップ1講演：「単一胚移植のための胚呼吸量測定について」(院長)
発表：「選択的単一胚移植(e-SET)におけるday3胚の呼吸量測定の試み」(小池恵)
「精子頭部の空胞サイズと精子DNA断片化に関する検討」(城戸京子)
「当院における超未熟卵子のIVM培養と臨床成績について」(熊迫陽子)
「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者(夫)による排卵誘発剤の在宅自己注射を推奨して～」(井澤里砂)
「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(赤嶺佳枝)
「ART施設における40歳以上のサポート・グループの取り組みについて」(篠田多加子)
11.11 第55回日本生殖医学会総会・学術講演会(徳島)SarahBaseブース展示 <山路、平松>
11.11 株式会社イニシア(東京)より、「製薬企業からのサービス等の提供へのニーズについて」の
インタビュー(徳島) 参加<院長>
11.12 平成22年度生殖医療従事者講習会(徳島) 参加<院長>
11.13 第163回体外受精教室 参加者67名 参加<佐藤、手島、井澤、越光>
11.14 JISART施設認定審査 審査員<越名>
11.16 第140回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
11.16 日本放送協会(NHK)より、「未受精卵子の凍結保存」についての電話取材
11.18 第41回大分市医師会医学会(大分) 参加<山路、平松、佐土原、越名、金子、小池、佐藤、
後藤香、長木、大津、山下、坂本、手島、相澤、川村、井澤、後藤裕、松元、赤嶺、越光、関、
篠田、指山、上野、院長>
発表：「年齢別体外受精の成績」(城戸京子)
「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(松土留美)
11.19 受付予約システムキックオフミーティング
11.20 第14回第6期オリーブの会 参加者2名
11.20 第199回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<金子、小池、熊迫、大津、篠田、
指山、河邊、院長>
11.20 第17回遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(沖縄) 参加<城戸>
発表：「流産後の胎盤絨毛におけるインプリント遺伝子の解析と精液性状・患者背景との関係」
(佐藤晶子)
11.25 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加<山路、平松、西郡、足立小、金子、山下、坂本、
河野>
講義：「不妊症講座」(院長)
「不妊治療と看護－患者の心理とケア・サポートー」(上野桂子)
11.27 第53回新患教室 参加者45名 参加<大津、相澤、後藤裕、関>
11.27 第44回ガーネットサークル OG1名、参加者4名
11.27 第33回JISART理事会(福岡) 参加<院長>
11.30 ISO9001マネジメントレビュー
12. 5 第3回Infertility Study Group (ISG)セミナー(東京) 参加<熊迫、越光>
講演：「不妊症検査(ルチンテスト)の問題点」(院長)
12. 6 大分合同新聞より「おおいた医療最前線 不妊症の生殖医療」についての取材
12. 7 第141回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
12.11 忘年会
12.18 第164回体外受精教室 参加者69名 参加<大津、井澤、関、二宮>

行事一覧(8)

2010	12.18	第5回 2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<篠田>
	12.20	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.9)取材
	12.21	新会計システム導入(テスト稼働)
	12.21	ウイメンズ・クリニック大泉学園(東京)SarahBase 技術指導 <工藤>
	12.23	JISART 非配偶者間ガイドライン検討会(東京) 参加<上野、院長>
	12.25	クリスマス会
	12.26	浅田レディースクリニック(名古屋)施設見学および英ウイメンズ セントラルファティリティクリニック(神戸)内覧会 参加<越名、大津、篠田、事務長、院長>
2011	1.4	新年会(セント・ルカ多目的ホール)
	1.8	第54回新患教室 参加者 57名 参加<大津、相澤、後藤裕>
	1.15	第165回体外受精教室 参加者 50名 参加<佐藤、岡田、二宮、篠田>
	1.18	第142回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
	1.22	第32回日本エンドメトリオーシス学会(東京) 参加<越光、後藤裕> 発表:「挙児希望患者に対する卵巣チョコレート嚢胞の取り扱い特にエタノール固定について」 (院長)
	1.22	第6回 2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<篠田>
	1.25	第12回セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員:上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、 緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、 指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、 野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
	1.29	第1回第7期オリーブの会 参加者 6名
	1.29	全国ディナゲスト研究会(東京) 参加<院長>
	2.1	院内全体研修:心肺蘇生法について(担当:看護部)
	2.1	国際ジャーナリスト大野和基氏取材のためご来院
	2.5	第2回生殖心理カウンセラーおよび不妊相談士継続研修会(東京) 参加<関、後藤裕、上野>
	2.5	日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会(東京) 参加<上野、院長>
	2.6	第8回日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<小池、後藤裕> 教育セミナー「生殖医療における心理援助の専門性と協働」座長:院長 ワークショップ「事例で学ぶ不妊相談・生殖心理カウンセリング」座長:上野桂子 発表:「胚移植不能後の説明における胚培養士の関わり方」(城戸京子)(優秀演題賞受賞) 「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」(関こずえ)
	2.12	第55回新患教室 参加者 49名 参加<長木、坂本、手島、足立直、後藤裕>
	2.14	第5回別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<城戸、大津>
	2.15	第143回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
	2.18	第2回大分産科婦人科内視鏡研究会世話人会(大分) 参加<院長>
	2.19	第34回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
	2.19	平成22年度環境省環境研究・技術開発推進費 第2回アドバイザリーボード会合(宮城) 参加<佐藤>
	2.20	JISART 施設認定審査説明会(東京) 参加<越名、大津、後藤裕、上野>
	2.20	JISART 出版編集委員会(東京) 参加<院長>
	2.22	第104回大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、平松、佐土原、西郡、足立小、金子、小池、 佐藤、熊迫、長木、大津、坂本、手島、相澤、井澤、松元、二宮、斎高、赤嶺、河野、関、 後藤裕、指山、上野、院長> 発表:「年齢別体外受精の成績」(城戸京子) 「ART 施設における40歳以上のサポート・グループの取り組みについて」(篠田多加子)
	2.23	第201回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊、院長>
	2.25	第2回産科連絡会議(大分) 参加<後藤裕>

行事一覧(9)

- 2011 2.26 第7回2010年度(第4期)不妊相談士(不妊コンサルタント)養成講座(東京) 参加<篠田>
3.1 新会計システム稼働
3.3 大分生殖医療懇話会(大分) 参加<山路、平松、工藤、西郡、足立小、越名、金子、佐藤、城戸、熊迫、長木、大津、手島、相澤、川村、岡田、井澤、足立直、二宮、斎高、赤嶺、河野、関、越光、篠田、後藤裕、指山、上野、河邊、院長>
「不妊症治療の現状と今後の展望」(セントマザー産婦人科医院 院長 田中温先生)
3.5 第166回体外受精教室 参加者69名 参加<工藤、越名、大津、相澤、岡田、二宮、赤嶺、後藤裕>
3.5 第45回ガーネットサークル OG1名、参加者5名
3.5 第1回インパクトファクタープログラム(東京) 参加<小池、城戸、熊迫、上野>
3.6 市民公開講座 産婦人科へ行こう!!2011(長崎) 参加<佐藤、大津、後藤裕、院長>
3.7 新職員 青木麻有さん(受付)
3.7 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.9)取材
3.12 第2回第7期オリーブの会 参加者8名
3.15 第144回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.18 第202回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<院長>
3.19 第44回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者77名
講師<後藤裕(看護副師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、青木、足立小、佐藤、手島、川村、足立直、越光>
3.22 院内全体研修：防災訓練(担当：看護部)
3.25 第13回セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、
近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
3.26 第167回体外受精教室 参加者62名 参加<平松、油野、青木、熊迫、相澤、二宮、赤嶺、篠田、上野>
3.30 医療法人セント・ルカ新病院建築上棟式
4.2 第56回新患教室 参加者42名 参加<工藤、越名、城戸、坂本、手島、足立直、後藤裕>
4.9 日本哺乳動物卵子学会常任理事会(東京) 参加<院長>
4.12 第145回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
4.16 第3回第7期オリーブの会 参加者7名
4.22 第33回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、平松、
工藤、青木、西郡、足立小、越名、金子、小池、城戸、坂本、手島、相澤、川村、岡田、井澤、
松元、二宮、赤嶺、斎高、河野、関、後藤裕、上野、河邊、院長>
「生殖補助医療登録から見えるもの」
(国立成育医療研究センター 母性医療診療部・不妊診療科 医長 斎藤英和先生)
4.23 第1回インパクトファクタープログラム(大阪) 参加<佐藤、長木、大津>
4.23 第7回九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加<二宮、越光、後藤裕>
発表：「挙児希望患者に対する Laparoscopic myomectomy(LM)と
2nd look laparoscopy(2nd)の所見について」(院長)
4.24 第68回日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<越光、河邊、院長>
第4群 [心理・看護] 座長：上野桂子
発表：「抗がん剤(シクロフォスファミド;CPA)投与によるマウス受精能への影響
—投与量の検討—」(小池恵)
「胚移植不能・全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方」(城戸京子)
「凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討」(熊迫陽子)
「不妊治療患者の性生活の現状と意識調査」(二宮睦)
「自己注射におけるヒヤリ・ハット報告～重大事例を振り返って～」(後藤裕子)

行事一覧(10)

- 2011 4.30 第 168 回体外受精教室 参加者 56 名 参加<山路、佐藤、相澤、岡田、赤嶺、篠田>
4.30 JISART フォローアップ部会(大阪) 参加<上野>
5. 2 大分県立病院 中山裕晶先生研修のためご来院(~5月 31 日まで)
5. 6 厚生労働省科学研究費児の調査研究打合せ(東京) 参加<工藤>
5. 7 第 57 回新患教室 参加者 64 名 参加<山路、青木、小池、坂本、手島、川村、後藤裕>
5.10 第 146 回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.10 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.11)取材
5.11 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加<山路、平松、青木、金子、坂本、手島、井澤、松元、
後藤裕、中山>
講義 :「不妊症講座」(院長)
5.14 第 169 回体外受精教室 参加者 30 名 参加<工藤、西郡、熊迫、相澤、岡田、赤嶺、関>
5.14 第 7 回ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者 7 名
5.18 SarahBase 新機能導入
5.21 第 4 回第 7 期オリーブの会
5.21 第 52 回日本哺乳動物卵子学会総会・学術講演会(栃木)
一般演題 第 1 群 ART(1) 座長 : 院長
発表 :「抗がん剤(シクロフォスファミド)投与によるマウス受精能への影響
—投与量及び薬剤残存期間の検討—」(小池恵)
「凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討」(熊迫陽子)
5.21 第 9 回日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(栃木) 参加<院長>
5.27 The 8th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility (Hong Kong)
参加<越名、松元>
講演 :「Epigenetics of assisted reproduction」(院長)
ポスター発表 :「Respiration Activity of Single Blastocyst : the Relationship between
Pre-Freezing and Post-Thawing」(熊迫陽子)(Best Poster Award 候補演題)
「Incident Reports of the Nursing Department in Fertility Clinic」(後藤裕子)
5.28 第 3 回 JISART 心理教育セミナー(福岡) 参加<上野>
5.28 第 4 回 JISART 事務教育セミナー(福岡) 参加<山路、平松、西郡、足立小>
5.28 第 4 回 JISART ラボ教育セミナー(福岡) 参加<長木、大津>
5.28 第 8 回 JISART 看護教育セミナー(福岡) 参加<河野、越光>
5.28 第 35 回 JISART 理事会(福岡) 参加<工藤>
5.29 第 9 回 JISART シンポジウム(福岡) 参加<西郡、足立小、長木、大津、河野、越光>
講演 :「私が長く勤められたセント・ルカ産婦人科の魅力」(上野桂子)
6. 4 第 58 回新患教室
6. 7 ISO9001 マネジメントレビュー
6.18 医療法人セント・ルカ新病院竣工式
6.19 第 18 回セント・ルカセミナー
講師 荒木晃子先生 <NPO 法人 Fine～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～>
講師 有馬隆博先生 <東北大学大学院医学系研究科 教授>
講師 緒方勤先生 <浜松医科大学小児科 教授>
講師 高橋克彦先生 <広島 HART クリニック 理事長>
講師 田中温先生 <セントマザー産婦人科医院 院長>
講師 吉村泰典先生 <慶應義塾大学医学部 教授> (五十音順)
7. 1 医療法人セント・ルカ新病院開院
7. 1 受付予約システム本稼動
7.14 大分県立看護科学大学(大分)講義
講義 :「不妊症講座」(院長)
「不妊症の対象の理解」(上野桂子)

行事一覧(11)

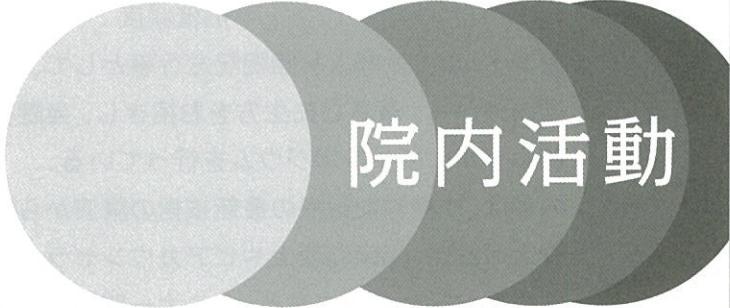
- 2011 7.23 第45回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
講師<後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
- 8.20 第3回 Korea-Japan ART Conference(韓国) 参加予定
講演:「Epigenetics of assisted reproduction」(院長)
9. 9 第29回日本受精着床学会総会・学術講演会(東京) 参加予定
シンポジウム講演:「癌患者へのA-PARTの取り組み:卵子保存」(院長)
- 9.10 第36回 JISART 理事会(東京) 参加予定<院長>
- 9.10 16th World Congress on In Vitro Fertilization(東京) 参加予定
- 10.15 67th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (Orlando) 参加予定
- 10.22 第14回日本IVF学会(東京) 参加予定
Morning Debate 「一卵巣刺激法に対する私の考え方」座長:院長
11. 5 第46回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
講師<後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
12. 8 第56回日本生殖医学会総会・学術講演会(神奈川) 参加予定
シンポジウム「生殖医療におけるがん・生殖医療(Oncofertility)の推進
—若年女性患者のQOL向上を目指して(仮)」座長:院長
シンポジウム講演:「悪性腫瘍未婚患者の卵子凍結について—われわれの経験」(院長)

論文一覧

- 2010 「電気化学的呼吸計測技術におけるヒト胚クオリティー評価と安全性」(後藤香里)
日本受精着床学会雑誌 27(1) : 53-58, 2010
- 2011 「排卵誘発剤の在宅注射に対する夫婦間の意識調査
～配偶者（夫）による排卵誘発剤の在宅注射を推奨して～」(井澤里砂)
『産科と婦人科』（診断と治療社）（掲載予定）

著書(共著)一覧

- 2010 「「臨床心理学の最新知見」：生殖医療の最前線で考える」(上野桂子／院長)『臨床心理学』
第 10 卷第 6 号 (金剛出版)
- 「選択的単一胚移植(eSET)において移植胚選別困難例に対する呼吸量測定の有用性」(後藤香里)
『産婦人科の実際』第 59 卷第 8 号 (金原出版)
- 「精子頭部の空胞と精子 DNA 断片化に関する検討」(城戸京子)『産婦人科の実際』第 59 卷第 6 号
(金原出版)
- 2011 「ヒト胚のクオリティー評価」(院長)『卵子学 Oocyteology』(京都大学学術出版会)（掲載予定）
- 「ヒト卵管液の組成」(院長)『生命の誕生に向けて<第二版>
－生殖補助医療(ART)胚培養の理論と実際』(近代出版)（掲載予定）
- 「生殖医療の現状」(院長)『産科と婦人科』（診断と治療社）（掲載予定）
- 「IVM の現状と将来」(院長)『産科と婦人科』（診断と治療社）（掲載予定）
- 「Infertility」(院長)『Encyclopedia of Disability』(丸善出版)（執筆中）



院內活動

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年国内外から、著名な先生方をお招きし、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演から胚培養士の話題、臨床心理士やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡る。セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院で行っている。

2010年参加人数：86名

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

開催頻度：1回／3ヶ月

(不妊検査・治療についての説明会。これから治療を受けようとされている方や、初診後間もない患者さんが対象)

広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヶ月に1度院外の会場で行い、参加者が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。スライドに写真や動画を多用し、院長が1時間程詳しく説明をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の医師に、男性不妊の治療説明などをしていただいている。2005年からは臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による心のお話、2006年からは看護師による治療内容等の説明も行っている。当院OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方)のお話も聞く事ができる。OG自身の治療歴から始まり、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

2010年参加のべ人数：225名

ガーネットサークル

開催頻度：1回／3ヶ月

(治療中の患者さんが、治療・妊娠・出産経験者から直接お話を聞いて、質問ができる会)

当院で治療し、出産へと至った方にお願いをして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。テーマはその都度異なるが、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるよう心がけている。経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないということの再認識もできる貴重な会である。

サークル名の由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

2010年参加のべ人数：16名

オリーブの会(第1～7期)

開催頻度：1回／1ヶ月～2ヶ月

(体外受精をしている40歳以上の患者さんの集い)

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんも近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ、2001年に第1期が立ち上げられた。臨床心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。現在、第6期～第7期が活動中である。

2010年参加のべ人数：41名

ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会

開催頻度：1回／1年
以前不妊治療をしていた方(現在はご夫婦だけの生活を選ばれた方)に、現在、不妊治療をしている患者さんに対して、当時の治療や現在の生活についてのお話をしていただく会を2004年から開催している。いつ、どのような形で治療を終結するかという、患者さんにとって大変困難な問題について、体験者の話を聴き、話し合いながら考えることのできる場となっている。

2010年参加人数：6名

体外受精教室

開催頻度：1回／1ヶ月
(体外受精にすすむ患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精の治療過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が約4時間程度かけて分かりやすく説明している。2010年より看護師、胚培養士によるお話も行っている。スライドを使用し、写真や画像を多用することにより、より分かりやすい内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

2010年参加のべ人数：614名

新患教室

開催頻度：1回／1ヶ月
(主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象)

当院の多目的ホールにて、院長が3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。2006年からは看護師によるお話、2009年からは臨床心理士(生殖心理カウンセラー)、胚培養士によるお話も行っている。早い時期に夫婦で参加する為、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

2010年参加のべ人数：472名

新患オリエンテーション

開催頻度：初診時

初診時、診察終了後に専門の教育を受けた看護スタッフが行っている。写真や資料を使い、1時間程かけて、患者さんへ病状説明、今後の治療のすすみ方や費用面の説明をしている。

院長相談

開催頻度：毎週月・水・金の18:00～(予約制)
普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室

開催頻度：毎週火・金・土の午前中(予約制)
2001年より、専門の臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。

なんでも相談

看護部

開催頻度：月・水・金の14:00～(予約制)
(看護師による相談)

不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に専門の教育を受けた看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

培養室

開催頻度：毎日11:00～12:00(予約制)
(胚培養士資格保持者による相談)

精液検査、IUI(選別精子子宮内注入法)、精子凍結、胚凍結、体外受精に関する質問を相談できる場として設けている。

院内研修

開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の午後、4 時間程かけて、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。研究室・培養室より、研究結果の発表や海外論文詳説、各部署より医療過誤につながりうる可能性のあったヒヤリ・ハットを報告し、今後の為に協議する安全管理委員会報告や、その週に治療を受ける患者さんについての治療方針などを話し合っている。

このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

培養室朝ミーティング

開催頻度：毎朝 20 分程度

培養室で職員と院長が培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

培養室ミーティング

開催頻度：月 2 回午後半日

培養室の職員全員で、日常業務や各自の研究テーマ、基礎知識に関する勉強会を行ったり、SarahBase を用いたデータ整理に関する検討を行っている。

その他

開催頻度：隨時

外来相談係(看護部)

治療に関する質問や、今後の治療内容についての説明など、15 分程度の相談を面談方式で行っている。

腹腔鏡検査前の説明(看護部)：個別説明

手術前検査終了後、腹腔鏡検査を受けられる患者さんへの説明を行っている。

開腹手術前の説明(看護部)：個別説明

手術前検査終了後、開腹手術を受けられる患者さんへの説明を行っている。

手術前説明(院長)：個別説明

手術の内容と進め方についての説明を行っている。

手術後説明(院長)：個別説明

手術時の映像を見ながら、手術内容や予後の説明、今後の治療方針等の説明を行っている。

ART 結果説明(1)

(培養室：胚培養士資格保持者)：個別説明

胚移植直前に、その周期での卵子、精子の状態や、培養した胚等の説明を行っている。

ART 結果説明(2) (看護部)：個別説明

妊娠判定チェック時に、判定結果についての説明のほか、陰性反応の場合は精神的サポートを行う。

ART 結果説明(3)

(培養室：胚培養士資格保持者)：個別説明

採卵や凍結胚融解後、移植できなかった場合に、その周期の卵子、精子、胚の状態や、移植できなかつた理由等の説明を行っている。

スタッフ配置

院長 宇津宮隆史

医局 河邊史子、宇津宮由布子

研究室・培養室

** * * * *
大津英子、長木美幸、熊迫陽子、後藤香里、城戸京子、
* *
佐藤晶子、小池 恵、金子奈央

看護部

◎ ◎ ◎
後藤裕子、篠田多加子、越光直子、関こずえ、河野絢子、
赤嶺佳枝、斉高美穂、二宮 瞳、松元恵利子、足立直美、
井澤里砂、松土留美、岡田清美、川村智恵、相澤奈津枝、
手島しおり、坂本順子、指山実千代(看護部顧問)

心理専門相談室

上野桂子(臨床心理士・生殖心理カウンセラー)

総務部

宇津宮富美子

受付

越名久美、足立小百合、西郡朝美、青木麻有

情報処理室

工藤由香、平松里美、山路美和

厨房

矢野千恵美、油野亜由美

**:日本哺乳動物卵子学会および日本生殖医学会認定
生殖補助医療管理胚培養士

*:日本哺乳動物卵子学会認定生殖補助医療胚培養士

◎:日本生殖医療心理カウンセリング学会認定不妊相談士

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所		
開設年月日	1992 年 6 月 3 日		
住 所	〒870-0823 大分市東大道 1 丁目 4 番 5 号 TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/ http://www.st-luke.jp/imode.htm (携帯電話用)		
許可病床数	13 床		
職 員 数	総数 40 名 常勤医 2 名 臨床心理士 1 名 非常勤医 1 名 総務部 1 名(兼任) 研究室・培養室 5 名 受付 4 名 検査室・培養室 3 名 情報処理室 3 名 看護師 12 名 調理士 2 名 准看護師 6 名 栄養士 1 名		
診 療 時 間 (受付予約制)	月・水・金: 8:30~11:30 13:30~15:30 17:00~18:30 火・木・土: 8:30~11:30 (祝日を除く)		



<本年報の集計も SarahBase を用いました>

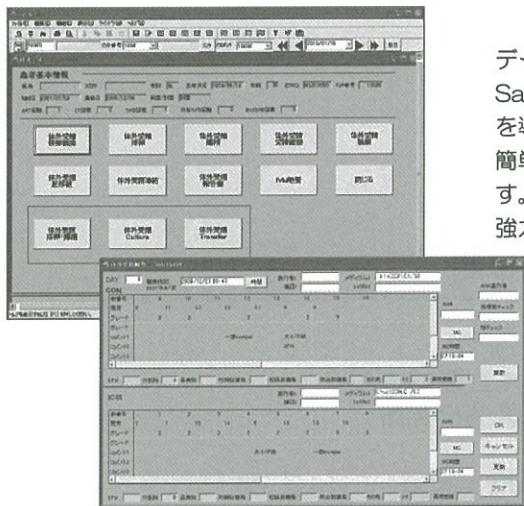
Sarah Base

臨床データ管理・医学統計解析ソフト
院内データ管理の強い味方です

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
WindowsXP／Windows7対応予定

データ蓄積・集計になくてはならない偉大な味方の
SarahBaseがさらにパワーアップしました。タッチパネル
を導入することにより、データが発生した場所で初心者でも
簡単にデータ蓄積ができ、記帳する手間と時間を節約できま
す。さらに、各機能を強化することにより、ラボスタッフの
強力な味方になりました。詳細はお問い合わせください。

きっとご満足いただけるはずです。



- 製品構成 SarahBase診療支援/データ排出/統計解析/項目管理作成ツール/
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
レセコン頭書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション)
生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション)/
新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
- 動作環境CPU: Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
OS: Windows XP メモリ: 128MB以上 HD空き容量: 100MB以上

(有)メディック・ルカ 〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号
セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)546-8585
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

2010年度年報

2011年6月 発行

発 行： 医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集： 宇津宮 隆史
〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号
Tel 097-547-1234
Fax 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

